

(様式第10)

香大医医第52号

平成29年10月

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人香川大学

学長 寛 善

香川大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成28年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
氏 名	国立大学法人香川大学 学長 寛 善行

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

香川大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	電話(087)898-5111
-----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科	2消化器内科	③循環器内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科
4腎臓内科	8代謝内科	
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	⑤ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	⑤ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍内科 2 形成外科 3 病理診断科 4 リハビリテーション科 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	0床	0床	0床	587床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	228人	168人	384.8人	看護補助者	55人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	8人	12.2人	理学療法士	8人	臨床検査技師	36人
薬 剤 師	42人	2人	44人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助 産 師	47人	0人	47人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	593人	48人	631人	臨床工学士	13人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	21人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	1人	事務職員	69人
管理栄養士	8人	2人	10人	診療放射線技師	33人	その他の職員	19人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	27人	眼科専門医	11人
外科専門医	30人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	17人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	11人	救急科専門医	6人
		合 計	197人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (横見瀬 裕保) 任命年月日 平成26年4月1日

平成15年10月1日～平成22年3月31日 (6年6か月)	安全管理室長
平成22年4月1日～平成23年3月31日 (1年0か月)	医療安全管理部長
平成25年10月1日～平成26年3月31日 (0年6か月)	医療安全管理部長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	460.7人	5.9人	466.6人
1日当たり平均外来患者数	873.7人	63人	936.7人
1日当たり平均調剤数			783剤
必要医師数			102人
必要歯科医師数			4人
必要薬剤師数			16人
必要(准)看護師数			270人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要																
集中治療室	894.3m ²	鉄筋コンクリート	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設備</th> <th>数</th> <th>概要</th> <th>有・無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数</td> <td>37床</td> <td>心電計</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>人工呼吸装置</td> <td>有・無</td> <td>心細動除去装置</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>その他の救急蘇生装置</td> <td>有・無</td> <td>ペースメーカー</td> <td>有・無</td> </tr> </tbody> </table>	設備	数	概要	有・無	病床数	37床	心電計	有・無	人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無	その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
設備	数	概要	有・無																
病床数	37床	心電計	有・無																
人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無																
その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無																
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 271.2m ² ○ [移動式の場合] 台数 0台 ○		病床数 ○9床 ○																
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 71.7m ² [共用室の場合] 共用する室名																		
化学検査室	112.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・臨床化学自動分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-2000FR) ・生化学検査分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-c16000)																
細菌検査室	161.7m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・微生物分類同定分析装置 MALDIバイオタイパー (ベックマン・コールター) ・MIC画像処理診断システム (栄研化学 IA20MICmk) ・BDバクテックFX (TOP) (日本ベクトン・ディッキンソン 441385)																
病理検査室	352.9m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・密閉式自動固定包埋装置 ティッシュテック VIP6 (サクラファインテックジャパン VIP6-J0) ・術中迅速凍結切片作成装置 クリオスタット (サクラファインテックジャパン Polar D) ・自動免疫染色装置 Ventana Benchmark Ultra (ロシュ・ダイアグノスティックス)																
病理解剖室	289.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・ラミナーフロー式 感染防止対策型解剖台 (サクラファインテックジャパン KBH-LD2V)																

病理解剖室	289.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)・ラミナーフロー式 感染防止対策型解剖台 (サクラファインテックジャパン KBH-LD2V)	
研究室	31.0m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) なし	
講義室	481.0m ²		室数	2室
図書室	1,672.0m ²		室数	7室
			収容定員	407人
			蔵書数	137,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.6%	逆紹介率	60.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,886人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,336人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		825人
	D: 初診の患者の数		13,786人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県立中央病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ 無	1
森脇 正	森脇法律事務所長 ・弁護士		法律に関する識見を有するため	有・ 無	1
瓜生 幸子	がん患者会ネットワーク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・ 無	2
中舎 喜博	香川大学副学長		学長が必要と認めた者	有 ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 附属病院のホームページへの掲載による公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	自己免疫性血球減少症に対するリツキシマブ療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 自己免疫性血球減少症の難治例の予後改善を目的とする。自己免疫性血球減少症は生命予後に大きく関わること、ステロイド剤が減量困難なことにより引き起こされる感染症などの合併症もまた長期予後を規定するものであることから、本治療による病態の改善は有用性が高いと考えられる。			
医療技術名	術後腸管に対するバルン内視鏡下ERCP	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 術後腸管に対するERCPは、これまで困難であったがバルン内視鏡によって容易になった。 しかし、バルン内視鏡を施行する施設は限定しており、現状ではハイボリュームセンターのみで行われている。			
医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡下瘻孔形成術は、経消化管的に胆道ドレナージ膵臓ドレナージを行う手技で専用のデバイスがなく手技も確立していると言えず、限定した施設のみで施行している。			
医療技術名	高度脈管浸潤肝癌に対する3DCRT併用肝動注リザーバー治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 脈管浸潤を伴う肝癌は予後が短く、確立された治療法はないのが現状。放射線治療やリザーバー肝動注治療は限定された施設のみで可能な治療である。			
医療技術名	多系統萎縮症における夜間呼吸障害の評価と治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ポリソムノグラフィーによる夜間呼吸障害の評価とそれに基づく非侵襲的人工呼吸装置の導入を行い、疾患の予後改善に寄与する。			
医療技術名	起立負荷後のAVP反応を用いた自律神経障害の評価	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 起立負荷時のAVP反応性を基に、中枢性自律神経障害の鑑別を行っている。			
医療技術名	免疫性神経疾患におけるガンマグロブリン静注療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 重症筋無力症および視神経脊髄炎の再発予防を目的にガンマグロブリン静注療法を行っている。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の色素法、RI法併用センチネルリンパ節生検	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 色素法とRI法を併用してセンチネルを見つけ、切除する。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の集団的治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍の手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアなどによる治療。			
医療技術名	悪性黒色腫の5S-CD値によるフォロー	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 腫瘍マーカーである5-S-CD値を定期的に測定し、経過フォローに役立てる。			
医療技術名	乾癬患者に対する生物学的製剤(抗TNF- α)による治療	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 乾癬患者に対し、生物学製剤を用いて治療を行う。			

医療技術名	ビリルビンの精密解析	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 ビリルビンの光異性体、抱合体を高速液体クロマトグラフィーを用いて高精度分析し、新生児高ビリルビン血症の病因、治療効果判定に用いる。			
医療技術名	新生児溶血性黄疸に対するガンマグロブリン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 高度新生児黄疸の原因となる溶血性黄疸を、非侵襲的に光を利用した黄疸計で早期に発見し、光療法と共にガンマグロブリン療法を行い、交換輸血を回避させる治療。			
医療技術名	光学的非侵襲的脳代謝・循環の測定	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 神経学的後遺症の軽減を目的とした、近赤外分光測定法を用いて、新生児の循環、代謝を評価。			
医療技術名	小児急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 小児で最も多い白血病に対し層別化を行い治癒率の向上と晩期合併症の低下を目標とする。			
医療技術名	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 各種悪性腫瘍における薬剤耐性遺伝子の検索を行い、治療の個別化を行い治療成績の向上を図る。			
医療技術名	FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 他の検査では原因が特定できない小児の白血病においてFDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影を行うことで原因を明らかにする。			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 基本的に両側の鼠径ヘルニア手術を鏡視下に行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下虫垂切除術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に虫垂切除を行っている。			
医療技術名	先天性横隔膜ヘルニア	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 開腹にて根治術を行った。			
医療技術名	低出生体重児小腸穿孔手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 人工肛門造設し救命した。			
医療技術名	先天性食道閉鎖手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 胸腔外アプローチにて根治術を施行。			
医療技術名	ヒルシュスプリング病根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下にヒルシュスプリング病根治術を行った。			
医療技術名	中間位鎖肛根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 仙骨会陰式に根治術を行った。			

医療技術名	胆道拡張症手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 開腹にて根治術を行った。			
医療技術名	膵癌に対する短期術前化学放射線療法を組み合わせた外科治療	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 短期間術前化学放射線療法(平成21年香川大学倫理委員会承認)を施行することにより完全切除率が高くなり、再発の可能性が低下する。			
医療技術名	画像ナビゲーションシステムを用いた肝臓外科手術	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 画像ナビゲーションシステム(ピンセント)を用いて術前に解剖や肝容量などを詳細に検討することにより安全な肝臓外科手術が可能となった。			
医療技術名	胃GISTに対するLECS手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 腹腔鏡・内視鏡合同手術(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery)により、必要最小限の侵襲で胃GIST切除を可能とする新しい手術方法。			
医療技術名	気管・気管支形成を伴う肺癌手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肺・気管の悪性腫瘍に対して気道再建を伴う手術を行う。			
医療技術名	肺癌患者に対する遺伝子解析に基づいた化学療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 肺癌患者に対して遺伝子解析に基づいた化学療法を行う。			
医療技術名	局所進行肺癌に対する集学的治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 局所進行肺癌に対して放射線化学療法後に肺癌手術を行う。			
医療技術名	下肢難治性骨折(偽関節)に対する骨・血管再生療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 顆粒球コロニー刺激因子製剤(フィルグラスチム)を皮下注射後、アフエシスで取り出した単核球から磁気細胞分離装置を使用してCD34陽性細胞のみを取り出す。偽関節手術は通常と同様の方法で行い、これに加えて、CD34陽性細胞をアテロコラーゲンを混ぜ、偽関節部に移植することで骨癒合を促進する。			
医療技術名	顔面神経麻痺形成手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺に対するネットワーク型神経移植。			
医療技術名	遊離皮弁術、遊離複合組織移植術	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 顕微鏡下血管吻合を用いた組織移植。			
医療技術名	遠位血行再建術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 膝以下の重症下肢虚血に対するバイパス手術。			
医療技術名	リンパ管静脈吻合	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 スーパーマイクロサージャリー技術を用いたリンパ管静脈吻合によるリンパ浮腫治療			

医療技術名	漏斗胸手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 3Dシミュレーションにより胸郭変形を予測した漏斗胸手術			
医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、複雑な腎腫瘍に対し、腎を全摘することなく部分切除する。			
医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘除術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、膀胱癌に対し、膀胱全摘除術を行う。さらに、体腔内で代用膀胱作製などの尿路変向術も行う。			
医療技術名	間質性膀胱炎(ハンナ型)の診断、治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 指定難病である間質性膀胱炎(ハンナ型)について、診断および治療を行っている。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中MRI	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要 当院の術中MRIは、手術室と同室にMRIを備えており、術中に患者を別室に移動することなく何度でもMRIを撮影することが出来る。主に脳腫瘍の手術において、術中にMRIを撮影することで、より安全で確実な腫瘍の摘出を目的とした治療である。			
医療技術名	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍患者に対する抗悪性腫瘍剤耐性遺伝子を検索することにより、個々の患者に効果のあり、さらに副作用の軽減を目的とした治療である。			
医療技術名	重症脳卒中および重症頭部外傷に対する脳低温・平温療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 重症脳卒中および重症頭部外傷に対して、脳保護を目的とした脳低温・平温療法である。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中ナビゲーション	取扱患者数	92人
当該医療技術の概要 手術において、術中ナビゲーションを用いることで、摘出部位や残存腫瘍が把握でき、さらに電気刺激部位の確認による機能温存を考慮した治療法である。			
医療技術名	脳神経外科手術における神経モニタリング	取扱患者数	97人
当該医療技術の概要 脳神経外科手術において、重要な脳神経が損傷されないように、神経を電気刺激してその反応を確認しながら手術を行うことで、より安全確実な手術ができる。			
医療技術名	5-アミノレブリン酸を用いた脳腫瘍手術	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 脳腫瘍手術において、周囲脳との境界が不明瞭な腫瘍では摘出範囲を決定するのが困難であるが、術前に患者にアミノレブリン酸を投与し、術中に偏光顕微鏡を用いることで腫瘍が蛍光認識できるため、確実に腫瘍を摘出することができる。			
医療技術名	ICGを用いた脳血管障害手術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 脳血管障害の手術において、術中に血行動態を把握するのは通常困難であるが、術中にICGを静脈投与して偏光顕微鏡で観察することで血管が蛍光認識できるため、安全確実に手術を行うことができる。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステントを併用したコイル塞栓術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の中で、サイズの大きなものや頸部が広いものはコイルのみでの塞栓術は困難であり、ステントを併用することでより確実なコイル塞栓術を行うことができる。			
医療技術名	脳動静脈奇形に対するOnyx embolic systemを用いた塞栓術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳動静脈奇形は治療が困難な疾患であるが、液体塞栓物質であるOnyx embolic systemを用いた塞栓術を行うことで、脳動静脈奇形を消失させたり、塞栓術後の摘出術や定位放射線治療の成績を向上させたりすることができる。			

医療技術名	脳梗塞急性期における機械的血栓回収療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期における治療はrt-PA治療であるが、これに反応しない症例などに対して、様々な血栓回収器材を用いて閉塞した血管を再開通させることができる。			
医療技術名	神経内視鏡下経鼻的下垂体手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 下垂体腺腫等の手術において、従来の顕微鏡を用いた手術にかわり、経鼻的に神経内視鏡を用いることにより、良好な術野で侵襲の少ない手術が可能である。			
医療技術名	経口腔の内視鏡下咽喉頭腫瘍切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 特殊な開口器、喉頭鏡を用いて内視鏡下に切除する。			
医療技術名	内視鏡補助下頭蓋底腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外切開を加えることなく、経鼻的・経口的に側頭下窩、頭蓋底の腫瘍を切除する。			
医療技術名	肝癌に対する肝動脈塞栓療法	取扱患者数	115人
当該医療技術の概要 肝癌に対してカテーテルを利用して肝動脈塞栓手術を行う。			
医療技術名	肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術。			
医療技術名	高速ヘリカルCTによる3次元画像	取扱患者数	2018人
当該医療技術の概要 高速ヘリカルCTによる3次元画像。			
医療技術名	強度変調放射線治療 (IMRT)	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要 多分割絞り(マルチリーフコリメータ)などを用いて、空間的又は時間的な放射線強度の調整を同一部位に対する複数方向からの照射について行うことで、三次元での線量分布を最適なものとする照射療法。3方向以上の照射角度から各門につき3種以上の線束強度変化をもつビームによる治療計画を逆方向治療計画法(インバースプラン)にて立案したもの。			
医療技術名	画像誘導放射線治療 (IGRT)	取扱患者数	88人
当該医療技術の概要 毎回の照射時に治療計画時と照射時の照射中心位置の三次元的な空間的再現性が5ミリメートル以内であることを照射室内で画像的に確認・記録して照射する治療。			
医療技術名	密封小線源治療 組織内照射 前立腺癌に対する永久挿入療法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 前立腺組織内にヨウ素 125 粒子を挿入する療法。			
医療技術名	免疫抗体によるHER2染色	取扱患者数	111人
当該医療技術の概要 転移性乳癌や乳癌術後及び進行・再発胃癌の補助化学療法。			
医療技術名	EBER in situ hybridization検査	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 パーキッリンパ腫・上咽頭癌・ホジキンリンパ腫・T/NKリンパ腫移植後リンパ増殖異常の感染証明。			

医療技術名	免疫抗体によるALK染色	取扱患者数	43人
当該医療技術の概要 非扁平上皮癌の治療に有効な分子標的治療薬適用のための診断。			
医療技術名	超音波内視鏡による細胞診・組織診	取扱患者数	84人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡によるon site cytologyとon site biopsyの診断。			
医療技術名	ヒルシュスプリング病のアセチルコリン染色	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプリング病の診断。			
医療技術名	腎臓並びに移植腎の特殊染色(アルポート症候群を含む)	取扱患者数	99人
当該医療技術の概要 腎生検・移植腎の腎炎・拒絶反応の診断。			
医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術。			
医療技術名	重症脳障害に対する体温管理療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心肺停止後症候群(PCAS)、くも膜下出血(SAH)等の重症脳障害に対し、体温管理療法を行っている。			
医療技術名	PCASに対する体外循環式心肺蘇生法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 PCASに対し体外循環式心肺蘇生法を行う。			
医療技術名	口腔がんにおける再建術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 口腔がん診療において欠損した組織を補う再建術を行うことで術後の機能障害をできるだけ軽減する。			
医療技術名	歯の欠損に対する口腔インプラント治療	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 歯を欠損した場合義歯やブリッジでの補強が必要であったが、インプラントを行うことにより天然歯と同様に咬合することが可能になる。			
医療技術名	内視鏡下の唾石摘出術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 大唾液腺に生じた唾石は、皮膚切開し唾液腺摘出が必要となったり口腔内を大きく切開し唾石を摘出することが必要であるが内視鏡を用いることで低侵襲となり小さな切除で唾石を摘出することが可能になる。			
医療技術名	内視鏡下歯根端切除術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 根光病巣は外科的に摘出され歯根端切除、逆根管充填術が行われるが臼歯部では視野の問題で対応がされず、摘出せざるを得なかった。しかし内視鏡を使用することで臼歯部についても保存し、以後の手術が可能となる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	47
2	筋萎縮性側索硬化症	23	57	特発性拡張型心筋症	30
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	11
6	パーキンソン病	185	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	23
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー-マリー-トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	89	66	IgA 腎症	34
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	18
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	80	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	32	69	後縦靱帯骨化症	41
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	14
17	多系統萎縮症	27	72	下垂体性ADH分泌異常症	5
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	34	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	10
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	35	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	29
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	60
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	50
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	7
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	11
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ-ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	16	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	14	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	77
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	22	95	自己免疫性肝炎	2
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	37
42	結節性多発動脈炎	16	97	潰瘍性大腸炎	67
43	顕微鏡的多発血管炎	19	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	15	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	18	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バーシャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	144	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	88	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	60	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	28	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	21	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	4	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
113	筋ジストロフィー	18	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	38	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	5	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	24

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・退院支援加算【加算2】
・特定機能病院入院基本料(一般 7対1)	・認知症ケア加算【加算2】
・特定機能病院入院基本料(精神 15対1)	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・診療録管理体制加算2	・救命救急入院料1 小児加算:有
・医師事務作業補助体制加算1	・救命救急入院料4 小児加算:有
・急性期看護補助体制加算	・特定集中治療室管理料2 小児加算:有
・看護職員夜間12対1配置加算2	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・看護補助加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2 プレイルーム加算:有
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算:有	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・総合評価加算	
・病棟薬剤業務実施加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病合併症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料1	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん患者指導管理料2	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料3	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・有床義歯咀嚼機能検査
・排尿自立指導料	・画像診断管理加算2
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層撮影
・薬剤管理指導料 医薬品安全性情報等管理体制加算:有	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・地域連携診療計画加算	・CT撮影及びMRI撮影 16列以上64列未満のマルチスライスCT 64列以上のマルチスライスCT MRI(1.5テスラ以上3テスラ未満) MRI(3テスラ以上)
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料2	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・乳房MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・運動器リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(IV)	・呼吸器リハビリテーション料(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん患者リハビリテーション料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 一次一次的再建 一次二次的再建及び二次再建
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・認知療法・認知行動療法2	・経皮的中隔心筋焼灼術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療保護入院等診療料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・硬膜外自家血注入	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術 及び経静脈電極除去術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・透析液水質確保加算2	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切 開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手 術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分 切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管 腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔 鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪 性腫瘍手術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以 上)を伴うものに限る。)
・磁気による膀胱等刺激法	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除、亜区域 切除、1区域切除(外側区域を除く)、2区域切除及び3区域切 除以上のもの)
・手術用顕微鏡加算	・生体部分肝移植術
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・歯科技工加算1及び2	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算 を算定する場合に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る。)一次再建 二次再建	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・同種死体腎移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び 脳刺激装置交換術	・生体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・膀胱水圧拡張術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))	・人工尿道括約筋植込・置換術
・網膜再建術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び 植込型骨導補聴器交換術、人工中耳用材料	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 (胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻 造設術を含む。))
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及び 乳がんセンチネルリンパ節生検(単独)	・輸血管理料II
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を 伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴 うもの))	・貯血式自己血輸血管理体制加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・超音波骨折治療法	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	80回
剖検の状況	剖検症例数 10例 / 剖検率 4.1%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究(ヤマカガシ及びセアカゴケグモ抗毒素を用いた臨床研究)	一二三 亨	救命救急センター	3,900,000	補 委	日本医療研究開発機構
心筋梗塞患者に対するエボエチンペータ等による心機能改善効果に関する研究-II	南野 哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科学	5,384,860	補 委	日本医療研究開発機構
医療機器の不具合用語集の維持管理及び利活用のあり方に関する研究	横井 英人	医療情報部	5,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
医薬品開発に利用できる疾患領域別データ標準の作成に関する研究(分担研究開発課題名等:「疾患領域別データ標準の国内での利用可能性についての研究」)	横井 英人	医療情報部	520,000	補 委	日本医療研究開発機構
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究(分担研究開発課題名等:難治がんに対するウイルス療法の開発)	門脇 則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究(分担研究開発課題名等:頭頸部腫瘍に対するIMRTの有用性に関する研究)	柴田 徹	放射線治療科	500,000	補 委	日本医療研究開発機構
医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースの利活用方法に関する薬剤疫学研究	横井 英人	医療情報部	1,100,000	補 委	日本医療研究開発機構
既存の診療情報と一体的に運用可能な症例登録システムの構築とアウトカム指標等の分析・利活用に関する研究	鈴木 康之	消化器外科学	390,000	補 委	日本医療研究開発機構
既存の診療情報と一体的に運用可能な症例登録システムの構築とアウトカム指標等の分析・利活用に関する研究	横井 英人	医療情報部	800,000	補 委	日本医療研究開発機構
CKD疫学調査	祖父江 理	腎臓内科	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	笥 善行	泌尿器科学	273,000	補 委	日本医療研究開発機構
スモンに関する調査研究	峠 哲男	健康科学(神経内科)	500,000	補 委	厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	300,000	補 委	厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	辻川 明孝	眼科学	200,000	補 委	厚生労働省
再生医療を応用した乳幼児肺移植技術の開発	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺内分泌外科学	1,300,000	補 委	文部科学省
再生医療を応用した乳幼児肺移植技術の開発	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺内分泌外科学	520,000	補 委	文部科学省
薬剤耐性遺伝子に関するmicroRNAを用いた悪性脳腫瘍に対する分子治療の研究	田宮 隆	脳神経外科学	2,340,000	補 委	文部科学省
薬剤耐性遺伝子に関するmicroRNAを用いた悪性脳腫瘍に対する分子治療の研究	田宮 隆	脳神経外科学	1,300,000	補 委	文部科学省
超音波による新しい多臓器包括的の老化指標の開発と生活習慣病の総合的管理の効果解析	舩形 尚	総合内科	650,000	補 委	文部科学省

小計 19

効果的な患者向け医薬品情報提供文書の必須因子の解析	池田 正行	医療情報部	1,690,000	補委	文部科学省
膠原病症例の治療効果判定におけるF-18 FDG PET検査の有用性の検討	川瀬 良郎	放射線医学	1,430,000	補委	文部科学省
核酸誘導体を用いた消化器癌のPET分子イメージング研究	小野 優子	放射線診断科	1,560,000	補委	文部科学省
強度変調放射線治療における治療計画法の標準化と均てん化に関する実験的・臨床的研究	柴田 徹	放射線治療科	1,040,000	補委	文部科学省
希少糖D-alloseを駆使した膵島移植成績向上の研究	鈴木 康之	消化器外科学	1,430,000	補委	文部科学省
脳外傷におけるmiRNAのバイオマーカーとしての有用性の検討	畠山 哲宗	脳神経外科	2,340,000	補委	文部科学省
非細菌性慢性炎症を伴う前立腺肥大症におけるサイトカイン・ケモカインの包括的解析	杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	1,040,000	補委	文部科学省
内リンパ囊・血管条における内リンパ液制御機構の研究	宮下 武憲	耳鼻咽喉科学	910,000	補委	文部科学省
正常眼圧緑内障の病態解明と神経保護治療薬の開発	廣岡 一行	眼科	1,690,000	補委	文部科学省
ポータブルEPR放射線被ばく線量測定装置の生体への応用	三宅 実	歯科口腔外科学	1,040,000	補委	文部科学省
口腔外科疾患に対する骨シンチグラフィ定量評価システムの開発と臨床応用	大林 由美子	歯・顎・口腔外科	1,690,000	補委	文部科学省
早産児の乳児期早期における視覚認知機能と発達の予後との関連について	小西 行彦	小児科	650,000	補委	文部科学省
肝発癌進展過程におけるマイクロRNAと血管新生分子を標的とした診断・治療法の開発	野村 貴子	消化器・神経内科学	910,000	補委	文部科学省
未熟児貧血における脳循環に基づく輸血基準の作成を目指して	小谷野 耕佑	小児科	780,000	補委	文部科学省
内リンパ囊の内リンパ静水圧調節機能についての検討	稲本 隆平	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	130,000	補委	文部科学省
漏斗胸患者に対して、最適な手術計画を「オーダーメイド」するシステムの開発	永竿 智久	形成外科学	1,430,000	補委	文部科学省
新規空調設備を有する手術室建造の有用性に関する研究	白杵 尚志	手術部	650,000	補委	文部科学省
消化管粘膜下腫瘍におけるmicroRNA解析から導かれる病態解明と予後因子予測	小原 英幹	消化器・神経内科学	1,820,000	補委	文部科学省
HDL代謝賦活による膵β細胞の脂肪毒性解除のストラテジー	村尾 孝児	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	2,210,000	補委	文部科学省
造血器腫瘍に対するHSV-1ウイルス療法の開発	門脇 則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,560,000	補委	文部科学省
誘導γδT細胞を用いたがん化学療法腸管免疫療法の開発	今滝 修	血液・免疫・呼吸器内科学	1,560,000	補委	文部科学省
アトピー性皮膚炎における自然免疫低下のメカニズムの解明と治療	中井 浩三	皮膚科学	780,000	補委	文部科学省
掌蹠角化症の根本的治療を目指して	米田 耕造	皮膚科学	780,000	補委	文部科学省
生体膜マイクロドメインと膜受容体の可視化による揮発性麻酔薬の作用機序の解明	小野 純一郎	麻酔学	1,040,000	補委	文部科学省
鎮静・鎮痛度指標と制御に関する検討	白神 豪太郎	麻酔学	650,000	補委	文部科学省
非侵襲的バイオマーカーによる腎移植後再発性腎炎の発症・活動性予測法の確立	祖父江 理	腎臓内科	1,430,000	補委	文部科学省
網膜中心静脈閉塞症における広角眼底撮影を用いた網膜虚血状態の定量的評価法の開発	辻川 明孝	眼科学	1,690,000	補委	文部科学省

生体内ダイレクト・リプログラミングを利用した血管付加脂肪組織の再生に関する研究	浜本 有祐	形成外科・美容外科	390,000	補委	文部科学省
apnec oxygenation理論を用いた気道手術の新しい呼吸管理法の開発	呉 哲彦	呼吸器外科	1,300,000	補委	文部科学省
精神疾患を合併する母から出生した児における乳児期早期の脳機能評価	加藤 育子	小児科	650,000	補委	文部科学省
抗糖尿病薬Metforminの抗腫瘍効果とtarget miRNAの同定	加藤 清仁	消化器・神経内科学	260,000	補委	文部科学省
小児期の尿中コプロポルフィリン(UCP-I)/(UCP-I+UCP-III)比	近藤 園子	小児科学	260,000	補委	文部科学省
放射線肺臓炎の新たな予測方法の開発	高橋 重雄	放射線治療科	780,000	補委	文部科学省
食道癌に対する根治的化学放射線療法の抵抗性予測とメカニズムの解明	岸野 貴賢	消化器外科	650,000	補委	文部科学省
ストレス受容性を制御するmicroRNAは脳腫瘍の治療感受性を向上させられるか?	小川 大輔	脳神経外科	1,170,000	補委	文部科学省
最大筋収縮時磁気刺激法の作用機序の解明と臨床応用に関する研究	峠 哲男	神経内科	4,030,000	補委	文部科学省
加齢, メタボリック症候群及び発癌におけるmiR-301aの機能解析	藤田 浩二	消化器内科	2,470,000	補委	文部科学省
肝細胞癌におけるGal-9のエクソソームを標的とした治療戦略のための基礎的研究	正木 勉	消化器内科	2,340,000	補委	文部科学省
パーキンソン病の睡眠障害が夜間高血圧に及ぼす影響	出口 一志	消化器・神経内科学	1,430,000	補委	文部科学省
転写因子PREBトランスジェニックマウス解析結果を用いた生活習慣病改善戦略	井町 仁美	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	2,210,000	補委	文部科学省
ヒトの生後早期における抗酸化作用を有するビリルビンと脳酸素消費率の変動の関連性	日下 隆	小児科学	3,120,000	補委	文部科学省
薬物のヒト血清アルブミンからのビリルビン遊離作用の研究	岡田 仁	小児科学	1,040,000	補委	文部科学省
アルツハイマー病と血液脳関門不全の関連について小動物用MRIを用いた研究	中村 祐	精神神経医学	1,300,000	補委	文部科学省
核酸代謝および低酸素イメージングを用いた脳腫瘍の治療戦略に関する研究	山本 由佳	放射線医学	1,820,000	補委	文部科学省
核酸誘導体を用いた頭頸部癌のPET分子イメージング研究	西山 佳宏	放射線医学	1,820,000	補委	文部科学省
レシピエントの生体内で血管柄付き同種骨を作成する試み-培養骨髄細胞の利用-	加地 良雄	リハビリテーション科	1,820,000	補委	文部科学省
オルファン型核内レセプターNR4A1に対する新規リガンドの膀胱癌治療への応用	田岡 利宜也	泌尿器科学	1,690,000	補委	文部科学省
がん化学療法中の制吐剤定期的時間差療法と光療法を利用した制吐療法の開発	植村 麻希子	血液・免疫・呼吸器内科学	1,040,000	補委	文部科学省
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法及び新規治療薬の治療効果判定方法の確立	中村 信嗣	小児科	1,300,000	補委	文部科学省
非小細胞肺癌におけるデジタル画像解析システムを用いた核グレード判定に関する検討	門田 球一	病理診断科	1,950,000	補委	文部科学省
新生児期の低酸素性虚血による多臓器障害の病態生理と治療に関する研究	久保 裕之	小児成育外科	1,170,000	補委	文部科学省
バレット食道腺癌におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の抗腫瘍効果の基礎的研究	藤原 新太郎	消化器内科	2,470,000	補委	文部科学省
新生児壊死性腸炎に対する糞便移植の有効性に関する研究	藤井 喬之	小児外科学	1,040,000	補委	文部科学省

小計 26
計 72

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yamaguchi F	Department of Cell Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University.	Oxidative Stress Impairs the Stimulatory Effect of S100 Proteins on Protein Phosphatase 5 Activity.	Tohoku J Exp Med. 2016 Sep ;240(1):67-78. doi: 10.1620/tjem.240.67.	Original Article
2	Noguchi C	Department of Cell Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University.	D-Allose Inhibits Cancer Cell Growth by Reducing GLUT1 Expression.	Tohoku J Exp Med. 2016 Jan ;238(2):131-41.	Original Article
3	Takeshige Y	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan. Pharmacology, Life Science Research Center, Gastroenterology, Cardiology	A sodium-glucose co-transporter 2 inhibitor empagliflozin prevents abnormality of circadian rhythm of blood pressure in salt-treated obese rats.	Hypertens Res. 2016 Jun;39(6):415-422	Original Article
4	Rahman A	Department of Pharmacology Life Science Research Center, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa	Effects of diuretics on SGLT2 inhibitor-induced changes in blood pressure in obese rats suffering from the metabolic syndrome.	J Hypertens, 2016 May;34(5):893-906.	Original Article
5	Nakano D	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Multiphoton imaging of kidney pathophysiology.	J Pharmacol Sci. 2016 Sep;132(1):1-5.	Review
6	Mizushige T	Department of Pharmacology, Kagawa University School of Medicine, Kagawa	Urinary angiotensinogen could be a prognostic marker of renoprotection of olmesartan in metabolic syndrome patients.	Int J Mol Sci. 2016 Oct 27;17(11). pii: E1800.	Original Article
7	Hasan AU	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Increase in tumor suppressor Arf compensates gene dysregulation in in vitro aged adipocytes.	Biogerontology. 2017 Feb;18(1):55-68.	Original Article
8	Hasan AU	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	GPR120 in adipocytes has differential roles in the production of pro-inflammatory adipocytokines.	Biochem Biophys Res Commun. 2017 Apr 22;486(1):76-82. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.03.001. Epub 2017 Mar 3.	Original Article
9	Miyashita T	Department of Otolaryngology, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Hormonal changes following a low-salt diet in patients with Meniere's disease.	Auris Nasus Larynx, 2017 Feb;44(1):52-57.	Original Article
10	Tsuji Akihito	Department of Clinical Oncology, Kagawa University Faculty of Medicine Cancer Center, Kagawa University Hospital, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0793, Japan.	Early Tumor Shrinkage and Depth of Response as Predictors of Favorable Treatment Outcomes in Patients with Metastatic Colorectal Cancer Treated with FOLFOX Plus Cetuximab (JACCRO CC-05).	Target Oncol. 2016 Dec;11(6):799-806.	Original Article
11	Takata T	Department of Neurology, Kagawa University Hospital, Japan.	Acute Intermittent Porphyria Presenting with Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome, Accompanied by Prolonged Vasoconstriction.	Internal Medicine 2017 Mar; 56 (6): 713-717	Case report
12	Takata T	Department of Intractable Neurological Research, Kagawa University Faculty of Medicine, Japan.	Dialysis-induced Subdural Hematoma in an Arachnoid Cyst Associated with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease.	Internal Medicine 2016 Aug; 55(15): 2065-2067	Case report

13	Zhang XZ	Department of Endocrinology and Metabolism, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Prolactin regulatory element-binding protein is involved in suppression of the adiponectin gene in vivo.	J Endocrinol Invest. 2017 Apr;40(4):437-445. doi: 10.1007/s40618-016-0589-3. Epub 2016 Dec 2.	Original Article
14	Lyu J	Department of Endocrinology and Metabolism, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Insulin-like Growth Factor 1 Regulates the Expression of ATP-Binding Cassette Transporter A1 in Pancreatic Beta Cells.	Horm Metab Res. 2016 May;48(5):338-44. doi:	Original Article
15	Yoshimoto T	Department of Endocrinology and Metabolism, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Effects of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors on urinary excretion of intact and total angiotensinogen in patients with type 2 diabetes	J Investig Med. 2017 Jun 8. pii: jim-2017-000445. doi: 10.1136/jim-2017-000445. [Original Article
16	Murao K	Department of Endocrinology and Metabolism, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Current status and issues of clinical-pass in diabetes	Nihon Rinsho. 2016 Apr;74 Suppl 2:673-7.	Original Article
17	Tadokoro A	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Vimentin Regulates Invasiveness and Is a Poor Prognostic Marker in Non-small Cell Lung Cancer.	Anticancer Res. 2016 Apr;36(4):1545-51.	Original Article
18	Yokokura S	a Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Confluence-dependent resistance to cisplatin in lung cancer cells is regulated by transforming growth factor-beta.	Exp Lung Res. 2016 May;42(4):175-81.	Original Article
19	Imataki O	Division of Hematology and Stem Cell Transplantation, Kagawa University Hospital, Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Neurotropic infiltration and neuropathy of multifocal lymphoma.	Support Care Cancer. 2016 May;24(5):1939-1940.	Case report
20	Imataki O	Kagawa University, Kagawa, Japan	Antilymphocyte Globulin for Chronic Graft-versus-Host Disease.	N Engl J Med. 2016 May 12;374(19):1894.	Others
21	Imataki O	Tsukuji Sushi Favorite Consortium, Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan.	The Leading Seafood Cuisine of Anisakidosis in Japan.	Clin Infect Dis. 2016 Jun 15;62(12):1612-3.	Original Article
22	Kanaji N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Impact of idiopathic pulmonary fibrosis on advanced non-small cell lung cancer survival.	J Cancer Res Clin Oncol. 2016 Aug;142(8):1855-65.	Original Article
23	Tadokoro A	Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kita-gun, Japan.	An uncharted constellation: TAFRO syndrome.	Am J Med. 2016 Sep;129(9):938-41.	Case report
24	Uemura M	Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Charlson comorbidity index predicts poor outcome in CML patients treated with tyrosine kinase inhibitor.	Int J Hematol. 2016 Nov;104(5):621-627.	Original Article

25	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Bone Marrow and Peripheral Blood: Which Is Safe?	Biol Blood Marrow Transplant. 2016 Dec;22(12):2283-2284.	Others
26	Imataki O	Division of Hematology and Stem Cell Transplantation Department of Internal Medicine Faculty of Medicine Kagawa University Kagawa Japan.	Chryseobacterium indologenes, a possible emergent organism resistant to carbapenem antimicrobials after stem cell transplantation.	Clin Case Rep. 2016 Dec 15;5(1):22-25.	Case report
27	Uemura M	Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Strain-specific transmission in an outbreak of ESBL-producing Enterobacteriaceae in the hemato-oncology care unit: a cohort study.	BMC Infect Dis. 2017 Jan 5;17(1):26.	Original Article
28	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Enteral Malakoplakia Prior to Helicobacter cinaedi Bacteremia.	Am J Gastroenterol. 2017 Jan;112(1):187-188.	Others
29	Watanabe N	Department of Infectious DiseaseKagawa UniversityKagawaJapan; Department of Internal MedicineHematologyRheumatology and Respiratory MedicineKagawa UniversityKagawaJapan.	Infective endocarditis and infected aneurysm caused by Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis: a case report.	Clin Case Rep. 2017 Jan 24;5(2):187-192.	Case report
30	Kanaji N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine,	An autopsy case of bronchiolitis obliterans as a previously unrecognized adverse event of afatinib treatment.	Respir Investig. 2017 Jan;55(1):58-62.	Case report
31	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Paradoxical thrombosis in idiopathic thrombocytopenic purpura.	Int J Hematol. 2017 Feb;105(2):111-112.	Original Article
32	Watanabe N	Department of Internal Medicine, Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Phanerochaete sordida as a cause of pulmonary nodule in an immunocompromised patient: a case report.	BMC Infect Dis. 2017 Feb 10;17(1):135.	Case report
33	Imataki O	Division of Hematology and Stem Cell Transplantation, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan.	Fatal Rhabdomyolysis Caused by Morganella morganii in a Patient with Multiple Myeloma.	Intern Med. 2017 Feb;56(3):369-371.	Case report
34	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Kita, Kagawa, Japan; Department of Gastroenterological Surgery, Ehime Rosai Hospital, Niihama, Ehime, Japan. Electronic address: hiro4884@med.kagawa-u.ac.jp.	Novel NOTES Techniques and Experimental Devices for Endoscopic Full-thickness Resection (BFTR).	Gastrointest Endosc Clin N Am. 2016 Apr;26(2):323-34.	Review
35	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Kita, Kagawa 761-0793, Japan.	Novel and safer endoscopic cholecystectomy using only a flexible endoscope via single port.	World J Gastroenterol. 2016 Apr 7;22(13):3558-63.	Original Article
36	Masaki K	Department of Neurology, Institute of Health Bioscience, Tokushima University Graduate School of Medicine, Tokushima, Japan Department of Neurological Intractable Disease Research, Kagawa University School of Medicine, Kagawa, Japan	Ocular myasthenia gravis with anti-muscle-specific tyrosine kinase antibodies: Two new cases and a systematic literature review.	Clinical and Experimental Neuroimmunology.2016 May 7: 168-173.	Original Article

37	Kobara H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	A novel strategy for complete duodenal endoscopic submucosal dissection involving prophylactic defect closure with over-the-scope clips.	Endoscopy. 2016 May;48 Suppl 1:E190-1.	Case report
38	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	Primary hepatic neuroendocrine tumor: A case report.	Mol Clin Oncol. 2016 Jun;4(6):954-956.	Case report
39	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	Innovative pure non-exposed endoscopic full-thickness resection by using an endoscopic suturing device.	Gastrointest Endosc. 2016 Jul;84(1):178-179.	Case report
40	Fujita K	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 760-8521, Japan.	Diabetes mellitus and metformin in hepatocellular carcinoma.	World J Gastroenterol. 2016 Jul 21;22(27):6100-6113.	Review
41	Sakamoto T	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Miki-cho, Kagawa 761-0793, Japan.	Identification of microRNA profiles associated with refractory primary biliary cirrhosis.	Mol Med Rep. 2016 Oct;14(4):3350-3356.	Original Article
42	Fujihara S	Departments of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine,	Management of a large mucosal defect after duodenal endoscopic resection.	World J Gastroenterol. 2016 Aug 7;22(29):6595-6609.	Review
43	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0793, Japan.	MicroRNA profiles in various hepatocellular carcinoma cell lines.	Oncol Lett. 2016 Sep;12(3):1687-1692.	Original Article
44	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0793, Japan.	Novel and effective countertraction using a ring-shaped thread for safer gastric and colorectal endoscopic submucosal dissection.	Gastrointest Endosc. 2016 Oct;84(4):735-736.	Case report
45	Fujita K	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Miki, Kagawa 761-0793, Japan.	Metformin-suppressed differentiation of human visceral preadipocytes: Involvement of microRNAs.	Int J Mol Med. 2016 Oct;38(4):1135-1140.	Original Article
46	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Japan.	The Development of Endoscopic Suturing Devices: Challenges in the Treatment of Iatrogenic Perforation and Bleeding.	Intern Med. 2016 Nov;55(21):3075-3076.	Review
47	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Department of Gastroenterological Surgery, Ehime Rosai Hospital,	Surgical margin-negative endoscopic mucosal resection with simple three-clipping technique: a randomized prospective study (with video).	Surg Endosc. 2016 Nov;30(11):4827-4834.	Original Article
48	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Rapid over-the-scope-clip emergency hemostasis guidewire-assisted method for proximal colon Dieulafoy massive bleeding.	Dig Endosc. 2017 Jan;29(1):127-128.	Case report

49	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Japan.	Rapid over-the-scope-clip emergency hemostasis guidewire-assisted method for proximal colon Dieulafoy massive bleeding.	Dig Endosc. 2017 Jan;29(1):127-128.	Letter
50	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Colored Ring-Shaped Thread Tag Clippings to Identify the Accurate Location of Multiple Polyps Resected via Endoscopic Mucosal Resection.	Gut Liver. 2017 Jan 15;11(1):164-165.	Case report
51	Fujita K	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Cancer Therapy Due to Apoptosis: Galectin-9.	Int J Mol Sci. 2017 Jan 1;18(1). pii: E74.	Review
52	Fujihara S	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa 761-0793, Japan.	The angiotensin II type 1 receptor antagonist telmisartan inhibits cell proliferation and tumor growth of esophageal adenocarcinoma via the AMPK α /mTOR pathway in vitro and in vivo.	Oncotarget. 2017 Jan 31;8(5):8536-8549.	Original Article
53	Nishiyama N	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Minimal incision-assisted full-thickness sampling with over-the-scope clip targeting intestinal neuronal malformation.	Endoscopy. 2017 Feb;49(S 01):E103-E104.	Case report
54	Kobara H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.'	Outcomes of gastrointestinal defect closure with an over-the-scope clip system in a multicenter experience: An analysis of a successful suction method.	World J Gastroenterol. 2017 Mar 7;23(9):1645-1656.	Original Article
55	Igarashi J	Department of Cardiovascular Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kita-Gun, Japan. igarashi@med.kagawa-u.ac.jp.	A key role of PGC-1 α transcriptional coactivator in production of VEGF by a novel angiogenic agent COA-CI in cultured human fibroblasts	Physiol Rep 2016 Mar;4(6).	Original Article
56	Hideto Shinno	Kagawa University	Alterations in Rapid Eye Movement Sleep Parameters Predict for Subsequent Progression from Mild Cognitive Impairment to Alzheimer's Disease	Journal of Alzheimer's Disease & Parkinsonism. Volume6 Issue2. 2016.	Original Article
57	Junichi DANJO	Kagawa University	Micro-Vibration Patterns Generated from Shape Memory Alloy Actuators and the Detection of an Asymptomatic Tactile Sensation Decrease in Diabetic Patients	IEICE Transactions on Information and Systems. Vol. E99.D (2016) No. 11. 2759-2766. 2016	Original Article
58	Kunikata J	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Developmental characteristics of urinary coproporphyrin I / (I +III) ratio.	Pediatr Int, 58:974-978, 2016, Oct.	Original Article
59	Nakamura S	1Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan 2The Ritchie Centre, Hudson Institute of Medical Research, Clayton, Melbourne, Victoria 3168, Australia	Cerebral haemodynamic response to somatosensory stimulation in near-term fetal sheep.	J Physiol, 595:1289-1303, 2017, Feb.	Original Article
60	Kato I	1Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Evans syndrome after autologous peripheral blood stem cell transplantation for recurrent Hodgkin lymphoma.	Pediatr Int, 58:933-936, 2016, Sep.	Case report

61	Okada H	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Reactivity of bilirubin photoisomers on the measurement of direct bilirubin using vanadic acid method.	Ann Clin Bipchem, Epub ahead of print 1:4563217709844. 2017 Jan	Original Article
62	AboEllail MAM.	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine	Fetal face as important indicator fo fetal brain function.	J Perinat Med 2017 Jan 28. 2016 DOI 10.1515/jpm-2016-0377	Review
63	Sato M.	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine, Department of Nursing, Kagawa Prefectural College of Health Sciences	3D power Doppler ultrasound assessment of placental perfusion during uterine contracton in labor.	Placenta 2016 ;45(September):32-36	Original Article
64	Mashima M.	Department of Pathology and Host Defense, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan; Department of Perinatology and Gynecology, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Glucose transporter 8 immunoreactivity in astrocytic and microglial cells in subependymal areas of human brains.	Neurosci Lett 2017;636 (1January):90-94	Original Article
65	Hata T.	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine,	Is there a sex difference in fetal bdhavior? A comparison of KANET test between male and female fetuses.	J Perinat Med 2016 Jul 1;44(5):585-588	Original Article
66	Hata T.	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine,	HDlive silhouette mode with spatiotemporal image correlation in assessment of the fetal heart.	J Ultrasound Med 2016 Jul;35(7):1489-1495	Original Article
67	Sajapala S.	Kagawa University Graduate School of Medicine,	Three-dimensional power Doppler with silhouette mode for diagnosis os malignant ovarian tumors.	Ultrasound Obstet Gynecol 2016 Dec ;48(6):806-808	Case report
68	Yamamoto K.	Kagawa University Graduate School of Medicine	HDlive imaging in diagnosis of uterine artery pseudoaneurysam during pregnancy.	Ultrasound Obstet Gynecol 2016 Jul ;48(1):127-128	Case report
69	AboEllail MAM.	Kagawa University Graduate School of Medicine	HDlive silhouutte mode in antenatal diagnosis of jejunal atresia.	Ultrasound Obstet Gynecol 2016Jul ; ;48(1):131-132	Case report
70	Yang PY.	Kagawa University Graduate School of Medicine	Antenatal diagnosis of idiopathic dilatation of pulmonary artery with 3D power doppler imaging.	J Clin Ultrasound 2017 Feb ;45(2):121-123	Case report
71	Nishimura M	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	Morphological study of the neurovascular bundle to elucidate nerve damage in pelvic surgery	International Journal of Colorectal Disease 31(3), 503-509, March 2016	Original Article
72	Kondo A	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Relationship between tissue tension and thermal diffusion to peripheral tissue using an energy device	Asian Journal of Endoscopic Surgery 9:226-230, August 2016	Original Article

73	Kishino T	1 Division of Epigenomics, National Cancer Center Research Institute, Tokyo, Japan 2 Division of Esophageal Surgery, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 3 Department of Gastroenterological Surgery, Kagawa University, Kagawa, Japan	Integrated analysis of DNA methylation and mutations in esophageal squamous cell carcinoma	Molecular Carcinogenesis 55(12), 2077-2088 January 2016	Original Article
74	Asano E,	Department of Gastroenterological Surgery, Kagawa University, Kagawa, Japan	Shikoku Consortium of Surgical Research (SCSR). Phenotypic characterization and clinical outcome in ampullary adenocarcinoma	World Journal of Surgical Oncology 2016 Jul;114(1):119-127,	Original Article
75	Maeda E	Department of Gastroenterological Surgery, Kagawa University, Kagawa, Japan	Multiple gastric gastrointestinal stromal tumors treated by laparoscopic-endoscopic cooperative surgery: A case report	Asian Journal of endoscopic surgery 9(4) 336-339, July 2016 Full	Case report
76	Kontani K	Department of Thoracic, Breast and Endocrine Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine,	Indication of metronomic chemotherapy for metastatic breast cancer: Clinical outcomes and responsive subtypes.	Mol Clin Oncol. 4 (6) 947-953. 2016.6	Original Article
77	Nishimura H	Department of Orthopaedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	GSK-3 inhibitor inhibits cell proliferation and induces apoptosis in human osteosarcoma cells.	Oncol Rep. 2016 Apr; 35(4): 2348-2354	Original Article
78	Fujihara R	Department of Pathology and Host Defense, Faculty of Medicine, Kagawa University Department of Orthopaedic Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University Life Science Research Center, Faculty of Medicine, Kagawa University	Albumin microvascular leakage in brains with diabetes mellitus.	Microsc Res Tech. 2016 sep; 79(9): 833-837.	Original Article
79	Nagasao T	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Medical/Graduate School of Kagawa University	Thoracic outlet syndrome after the Nuss procedure for pectus excavatum: Is it a rare complication?	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2017 Jun 3. pii: S1748-6815(17)30221-8	Original Article
80	Nagasao T	a Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Japan.	Preservation of deep-layer fat of lateral zones prevents postoperative seroma after TRAM-flap harvesting for breast reconstruction: a retrospective study.	J Plast Surg Hand Surg. 2017 Jan 13:1-9.	Original Article
81	Hamamoto Y	a Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Japan.	Utilization of a sero-muscular patch for safe wound closure after free jejunum transfer for a skin-esophageal fistula.	Surg Today. 2017 Jul;47(7):891-894.	Letter
82	Tanaka Y	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Kagawa University Hospital, Takamatsu, Kagawa, Japan.	Revisiting Microsurgical Distal Bypass for Critical Limb Ischemia.	J Reconstr Microsurg. 2016 Oct;32(8):608-614.	Original Article
83	Kakehi Y	Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine,	Current status and future perspectives of clinical research for prostate cancer	Nihon Rinsho. 2016 May 20;74 Suppl 3:17-24.	Review
84	Sakura Y	Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine,	A quantitative study on splice variants of N-acyl ethanolamine acid amidase in human prostate cancer cells and other cells.	Biochim Biophys Acta. 1861 :1951-1958, 2016 Dec	Original Article

85	Taoka R	Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine,	CDODA-Me decreases specificity protein transcription factors and induces apoptosis in bladder cancer cells through induction of reactive oxygen species.	Urologic Oncology 2016 Aug;34(8):337 e11-18.	Original Article
86	Hayashida Y	Department of Urology, School of Medicine, Kagawa University, Miki, Kagawa, Japan.	Invention of a novel photodynamic therapy for tumors using a photosensitizing PI3K inhibitor.	Int J Cancer. 2016 Aug 1;139(3):700-711	Original Article
87	Shishido H	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	Traumatic brain injury accelerates amyloid- β deposition and impairs spatial learning in the triple-transgenic mouse model of Alzheimer's disease.	Neurosci Lett. 2016 Aug 26;629:62-7.	Original Article
88	Miyake K	Department of Neurological Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine.	Usefulness of positron emission tomographic studies for gliomas.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Jul 15;56(7):396-408	Review
89	Shishido H	1Department of Neurosurgery, University of Michigan, Ann Arbor, MI, USA. 2Department of Neurosurgery, Kagawa University, Kagawa, Japan.	The Effect of Gender on Acute Hydrocephalus after Experimental Subarachnoid Hemorrhage.	Acta Neurochir Suppl. 2016;121:335-9	Original Article
90	Koichiro Manabe	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	Metamorphopsia associated with branch retinal vein occlusion.	PLoS One 11(4):e0153817, 2016 Apr 28	Original Article
91	Kazuyuki Hirooka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	The relationship between vision-related quality of life and visual function in glaucoma patients.	Journal of Glaucoma 25(6):505-509, 2016 Jun	Original Article
92	Kazuyuki Hirooka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Estimating the rate of retinal ganglion cell loss to detect glaucoma progression: An observational cohort study.	Medicine (Baltimore) 95(30):e4209, 2016 Jul	Original Article
93	Yuki Nakano	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Retinal oximetry in a healthy Japanese population.	PLoS One 11(7):e0159650, 2016 Jul	Original Article
94	Shino Sato	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Additive intraocular pressure lowering effects of the Rho kinase inhibitor, ripasudil in glaucoma patients not able to obtain adequate control after other maximal tolerated medical therapy.	Advances in Therapy 33(9):1628-1634, 2016 Sep	Original Article
95	Takeru Shimazaki	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Relationship between oxygen saturation of the retinal vessels and visual field defect in glaucoma patients: comparison with each hemifield.	Acta Ophthalmologica 94(8):e683-e687, 2016 Dec	Original Article
96	Chieko Shiragami	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine. Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine. Department of Ophthalmology, Okayama University Graduate School of Medicine.	Effect of topical isopropyl unoprostone on macular atrophy progression in eyes with exudative age-related macular degeneration.	Medicine (Baltimore) 96(12):e6422, 2017 Mar	Original Article

97	Mamoru Kobayashi	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine. Department of Pharmacology, Kagawa University Faculty of Medicine.	The relationship between the renin-angiotensin-aldosterone system and nmda receptor-mediated signal and the prevention of retinal ganglion cell death.	Investigative Ophthalmology & Visual Science 58(3):1397-1403, 2017 Mar	Original Article
98	Hoshikawa H	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1, Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa, Japan. hiro@med.kagawa-u.ac.jp.	Influence of volumetric 4'-[methyl-11C]-thiothymidine PET/CT parameters for prediction of the clinical outcome of head and neck cancer patients.	Annals of Nuclear Medicine(27 Sep 2016,31(1):63-70)	Original Article
99	Katsuya Mitamura	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Intratumoral heterogeneity of 18F-FLT uptake predicts proliferation and survival in patients with newly diagnosed gliomas.	Annals of Nuclear Medicine (Vol.31・Issue1・46-52・2017.1)	Original Article
100	Takahashi S	Department of Radiation Oncology, Kagawa University Hospital	Relationship between dose-volume parameters and pulmonary complications after neoadjuvant chemoradiotherapy followed by surgery for lung cancer.	Strahlenther Onkol. 2016 Sep;192(9):658-67.	Original Article
101	Takahashi S	Department of Radiation Oncology, Kagawa University Hospital, Department of Radiation Oncology, Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University, Hiroshima, Japan.	Long-term results after 12-year follow-up of patients treated with whole-breast and boost irradiation after breast-conserving surgery.	Jpn J Radiol. 2016 Sep;34(9):595-604.	Original Article
102	Ryou Ishikawa	Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Cytopathological features of villous adenoma of the urinary bladder in urine: A rare case report.	Diagnostic Cytopathology. 2016 Jul;44(7):632-5.	Case report
103	Kyuichi Kadota	Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Nuclear grade based on transbronchial cytology is an independent prognostic factor in patients with advanced, unresectable non-small cell lung cancer.	Cancer Cytopathology. 2016 Sep;124(9):630-40.	Original Article
104	Kyuichi Kadota	Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University. Department of Pathology, Memorial Sloan Kettering Cancer Center	KRAS Mutation Is a Significant Prognostic Factor in Early-stage Lung Adenocarcinoma.	American Journal of Surgical Pathology. 2016 Dec;40(12):1579-1590.	Original Article
105	Takehiro Miki	Department of Oral and Maxillofacial Surgery (Dean: K. Imaida), Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University,	Development of a virtual reality training system for endoscope-assisted submandibular gland removal.	J Craniomaxillofac Surg. 2016 Nov;44(11):1800-1805	Original Article
106	Minoru Miyake	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University,	In vivo radiation dosimetry using portable L-band EPR : On-site measurement of volunteers in Fukushima Prefecture, Japan.	Radiat Prot Dosimetry. 2016 Dec;172(1-3):248-253.	Original Article
107	Ogawa Takaaki	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Bone carrier technique with disposable syringe.	Br J Oral Maxillofac Surg. 2017 Jan;55(1):e3-e4	Original Article
108	Khaleque Hasibul	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	Intra oral reconstruction with buccal fat pad: Recent applications of autologous tissue transplantation as a local flap. applications of autologous tissue transplantation as a local flap.	JPRAS Open 10 (2016) 33-39 Dec.	Original Article

109	Khaleque Hasibul	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	Oral nodular fasciitis associated with chronic pericoronitis - A case report.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology doi./10.1016/j.jajoms.2017.03.002	Case report
110	Egawa, Satoshi	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Kawaga University	Clinical characteristics of nonconvulsive status epilepticus diagnosed by simplified continuous EEG monitoring at an emergency intensive care unit.	Acute Medicine & Surgery 2016 27 May doi; 10.1002/ams2.221	Original Article
111	Shinohara Natsuyo	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Miki, Japan.	d-Allose Attenuates Overexpression of Inflammatory Cytokines after Cerebral Ischemia/Reperfusion Injury in Gerbil.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 25.9 sept 2184-2188	Original Article
112	Tomoya Okazaki	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Association between comorbidities, nutritional status, and anti-clotting drugs and neurological outcomes in geriatric traumatic brain injury patients with Traumatic Brain Injury.	World Neurosurgery 2016 Sep;93:336-40. doi: 10.1016/j.wneu.2016.06.070.	Original Article
113	Hifumi Toru	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Kawaga University	Plasma Potassium Concentration on Admission Correlates with Neurological Outcome in Traumatic Brain Injury Patients Treated with Targeted Temperature Management: a Post Hoc Analyses of a Multicenter Randomized Controlled Trial.	World Neurosurg. 2016 Jul 19. pii: S1878-8750(16)30564-2. doi: 10.1016/j.wneu.2016.07.040. [Epub ahead of print]	Original Article
114	Tomoya Okazaki	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Kawaga University	Blood Glucose Variability: A Strong Independent Predictor of Neurological Outcomes in Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage.	J Intensive Care Med. 2016 Sep 14. pii: 0885066616669328. [Epub ahead of print]	Original Article
115	Hifumi Toru	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, 1750-1 Ikenobe, Kita, Miki, Kagawa 761-0793, Japan.	Association of brain metabolites with blood lactate and glucose levels with respect to neurological outcomes after out-of-hospital cardiac arrest: A preliminary microdialysis study	Resuscitation 2017 Jan;110:26-31.	Original Article
116	Yasuhiro Kuroda	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Kawaga University	Neurocritical care update	Journal of Intensive Care 2016 May 28;4:36	Review
117	Ryuta Nakashima	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Kawaga University	Critical care management focused on optimizing brain function after cardiac arrest	Circulation Journal vol 81 No 4 2017 Mar 24 427-439	Review
118	Tomoya Okazaki	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Kawaga University	Recurrent convulsions, hypocalcemia, and hypoparathyroidism related to delayed diagnosis of 22q11.2 deletion syndrome in a middle-aged man	Acute Medicine & Surgery 2016 May doi: 10.1002/ams2.216	Case report
119	Tomoya Okazaki	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Burst suppression in hypothermia following cardiac arrest because of drowning treated with targeted temperature management: A case report	Therapeutic Hypothermia and Temperature Management 2016 Dec 16. [Epub ahead of print]	Case report
120	Naoki Nishimoto	Kagawa University Hospital Clinical Research Support Center Kita-gun Japan.	Estimating duration of public concern after the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station accident from the occurrence of radiation exposure related terms on Twitter: a retrospective data analysis.	JMIR Public Health and Surveillance. 2(2), e168 2016 Nov. DOI: 10.2196/publichealth.5384	Original Article

121	Kunikata J	Pediatrics Kagawa University Hospital, 1750-1 Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa 761-0793, Japan.	Developmental characteristics of urinary coproporphyrin I/(I + III) ratio	Pediatrics International, 2016 Oct;58(10):974-978	Original Article
122	Ishikawa I	Department of Neuropsychiatry, Kagawa University School of Medicine, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	The effect of memantine on sleep architecture and psychiatric symptoms in patients with Alzheimer's disease.	Acta Neuropsychiatr. 2016 Jun;28(3):157-64. doi: 10.1017/neu.2015.61. Epub 2015 Nov 17.	Original Article
123	Okada H	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Effects of bilirubin photoisomers on the measurement of direct bilirubin by the bilirubin oxidase method.	Ann Clin Biochem. 2017 Jan 1;4563217716474. doi: 10.1177/0004563217716474.	Original Article
124	Kato T	Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa, Japan.	Retroperitoneal liposarcoma excreting insulin-like growth factor 2 that induced severe hypoglycemia.	Int J Urol. 2017 Feb;24(2):162-165. doi: 10.1111/iju.13276. Epub 2016 Dec 24.	Case report
125	Yokoyama K	Department of Anesthesiology, Graduate School of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Sex differences in attachment to spouses among older Japanese couples.	Geriatr Gerontol Int. 2017 May;17(5):834-838.	Original Article

小計 5

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

計125件

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	西山 成	薬理学	アンジオテンシン II 受容体拮抗薬	腎と透析, 80(4): 459-462, 2016.4	Original Article
2	西山 成	薬理学	血圧変動の異常とそのメカニズムーRA系 と血圧変動ー	血圧変動 エビデンス&プラク ティス 先端医学社, 楽木宏実編集, P36-39, 2016.5	Original Article
3	西山 成	薬理学	RASと糖尿病性腎症	腎臓内科・泌尿器科, 3(6): 565- 569, 2016.6	Original Article
4	西山 成	薬理学	SGLT2阻害薬の多面的な腎作用	BIO Clinica, 31(12): 1244-1248, 2016.11	Original Article
5	中野大介	薬理学	抗高血圧薬(降圧薬)	イラストレイテッド薬理学 丸善出 版、柳澤輝行、丸山 敬監訳、 P249-264, 2016.12	Others
6	川上 良	薬理学	抗凝固・抗血症薬	イラストレイテッド薬理学 丸善出 版、柳澤輝行、丸山 敬監訳、 P321-342, 2016.12	Others
7	山崎大輔	薬理学	免疫抑制薬	イラストレイテッド薬理学 丸善出 版、柳澤輝行、丸山 敬監訳、 P674-685, 2016.12	Others
8	西山 成	薬理学	慢性腎臓病研究の最新知見と将来展望	循環plus, 17(5): 2-6, 2017.2	Others
9	山崎大輔	薬理学	腎臓から見た「脳-心-腎連関」	日本医事新報, 4843: 33-38, 2017.2	Original Article
10	辻 晃仁	香川大学医学部 臨床腫瘍学	抗がん薬のさじ加減	癌病態治療研究会邦文誌25W' Waves, Vol. 22 No. 1 p. 25-p. 27 2016	Others
11	岡田 宏基	医学教育学講座	痛みを主訴とする機能的な身体症候群	成人病と生活習慣病46, 909-914, 2016.12	
12	村尾孝児	香川大学医学部内分泌代謝内科	生活習慣病～香川から世界へ発信～	Nihon Rinsho 2016.6 74 Suppl 2:673-7	Review

13	井町仁美	香川大学医学部内分泌代謝内科	インスリン、血中CPR、24時間尿CPR排泄量、CPRインデックス	調査月報 2016;356、2-8	Review
14	井町仁美	香川大学医学部内分泌代謝内科	甲状腺クリーゼを疑うときは？	日本臨床 2016.9 74 384-387	Review
15	村尾孝児	香川大学医学部内分泌代謝内科	香川県における生活習慣病への取り組み	総合診療 2017.8 1082	Review
16	佐藤誠祐	香川大学医学部内分泌代謝内科	希少糖の作用と特性	臨床病理 65;830-837、2017.1	Review
17	尾崎洋基	香川大学	【リウマチ性疾患の分類基準と治療ガイドライン:エキスパートにおける必要性和その使い方】リウマチ性多発筋痛症	炎症と免疫 24巻3号 P236-242 2016.4	Original Article
18	亀田智広	香川大学	【プライマリケア医もできる! 関節リウマチ診療】注意が必要な合併症・副作用対策 合併症・併発症とその対策,薬剤選択について	内科 117巻5号 P1183-1188 2016.5	Review
19	門脇則光	香川大学	【日常診療で遭遇する難治性造血器腫瘍の話題とそのアプローチ】造血器腫瘍に対する免疫療法の可能性	血液内科 72巻5号 P647-650 2016.5	Review
20	亀田智広	香川大学	【関節リウマチupdate-基礎・臨床の最新情報-】合併症に関する最新知見 関節リウマチと悪性腫瘍	日本臨床 74巻6号 P1017-1021 2016.6	Review
21	門脇則光	香川大学	【多発性骨髄腫学-最新の診療と基礎研究-】多発性骨髄腫の治療と支持療法 多発性骨髄腫の治療 骨髄腫の免疫療法	日本臨床 74巻増刊5 多発性骨髄腫学 P427-430 2016.7	Review
22	門脇則光	香川大学	【がん免疫療法 腫瘍免疫学の最新知見から治療法のアップデートまで 免疫学の基礎知識と、免疫チェックポイント阻害薬、T細胞療法、個別化・複合免疫療法、臨床開発の最前線】(第1部)腫瘍免疫応答の基本とその制御メカニズム (第1章)腫瘍免疫における免疫細胞と免疫分子 腫瘍免疫における樹状細胞	実験医学 34巻12号 P896-1901 2016.8	Review
23	金地伸拓	香川大学	【超高齢化時代の呼吸器診療】基礎医学とのダイアログ 喫煙によって誘導される線維芽細胞の老化とそれに対する抵抗性	THE LUNG-perspectives 24巻3号 P298-302 2016.8	Review
24	亀田智広	香川大学	【リウマチ性疾患に使用する免疫抑制薬の使い方】アザチオプリン	リウマチ科 56巻3号 P244-248 2016.9	Review

25	門脇則光	香川大学	【白血病学(下)-最新の基礎、臨床研究-】 白血病の治療 総論 造血幹細胞移植 (理論、方法) 樹状細胞、リンパ球	日本臨床 74巻増刊10 白血病学 (下) P20-24 2016.12	Review
26	西山典子	消化器・神経内科	消化管壁全層縫合器Over-The-Scope Clip(OTSC)システムの現状と課題	日本消化器内視鏡学会雑誌 58: 1135-1148, 2016.06	Review
27	森 宏仁	消化器・神経内科	経管腔的内視鏡手術 NOTES~内視鏡 的・消化管壁全層切除EFTRに至るまで~	香川県内科医会誌 52: 3-8, 2016.08	Review
28	野村貴子	消化器・神経内科	ガイドラインに沿った原発性胆汁性肝硬 変(PBC)の診断と治療	香川県内科医会誌 52: 9-16, 2016.08	Review
29	小原英幹	消化器・神経内科	NBI(Narrow Band Imagine:狭帯域光)につ いて—実臨床でのNBI活用法—	日本消化器内視鏡技師会報 57: 96-101, 2016.09	Review
30	小林聖幸	消化器・神経内科	ダブルバルーン内視鏡(DBE)下胆道処置 不成功例に対する超音波内視鏡(EUS)ガ イド下胆道治療の有用性	胆道 30: 883-888, 2016.12	Case report
31	森上徹也	皮膚科	背部の癢痒性皮膚病変に対する自己外 用補助具の開発とその有用性の検討	西日本皮膚科 Vol. 78 (2016.12) No. 4 p. 395-400	Original Article
32	日下隆	香川大学医学部小児科学講座	経皮黄疸計の仕様と留意点	新生児のプライマリ・ケア, 診断と 治療社, 2016.05.	Review
33	岡田仁	香川大学医学部小児科学講座	ビリルビン代謝と新生児黄疸	周産期医学必修知識, 46:521- 523, 2016.12	Review
34	安田真之	香川大学医学部附属病院総合周産期母 子医療センター	新生児仮死/NSE, S-100 β , UCHL1, CK-BB	周産期医学, 46:1377-1381, 2016.11	Review
35	杉野政城	香川大学医学部小児科学講座	アセトアミノフェンのin vitroにおけるビリ ルビンdisplacement作用の評価	臨床化学, 45(3):280-281, 2016.	Original Article
36	田中 彩	小児外科学、分子微生物学	【腸管機能評価法】腸内フローラに基づく 腸管機能評価	日本静脈経腸栄養学会雑誌、31 巻5号、1095-1098、2016年9月	Others

37	下野隆一	小児外科学、小児成育外科、小児科、放射線医学	無症候性胸腺腫大	小児外科、48巻9号、2016-2019、2016年9月	Review
38	藤井喬之	小児外科学	小児急性虫垂炎におけるPediatric Appendicitis Scoreと病理学的進行度との関連性の検討	日本小児外科学会雑誌、52巻4号、933-937、2016年6月	Original Article
39	垂水晋太郎	呼吸器外科	【低侵襲手術の最前線】呼吸器領域 切除領域縮小による手術低侵襲化のための工夫(区域間の同定など) 血管から(解説/特集)	胸部外科 69 (8) 671-675・2016.7	Original Article
40	辻本 龍	香川大学 医学部整形外科学教室	顆粒細胞腫2例における電子顕微鏡所見の検討	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌、60巻1号: 75-76 2017	Case report
41	宮地 伸晃	香川大学 医学部整形外科学教室	骨軟化症に伴う大腿骨外髁変形による非定型大腿骨不全骨折に予防的髓内釘を施行した1例	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌、59巻6号: 1139-1140 2017.2	Case report
42	宮地 伸晃	香川大学 整形外科	前十字靭帯断裂後の内側型変形性膝関節症に対し人工膝関節単顆置換術と前十字靭帯再建術を併用した1例	日本人工関節学会誌、46巻: 339-340 2016.12	Case report
43	加地 良雄	香川大学	橈骨遠位端骨折における抜釘前CTによる掌側プレート設置位置の評価と術中所見の比較	日本手外科学会雑誌、33巻3号: 331-334 2016.12	Original Article
44	真柴 賛	香川大学 整形外科	特発性膝骨壊死に対するUKAの治療成績	JOSKAS、41巻3号 2016: 913-917	Original Article
45	岩田 憲	香川大学 整形外科	Direct anterior approachを用いた人工股関節全置換術の短期成績	Hip Joint、42巻1号: 424-427 2016.8	Original Article
46	鷹村 将志	香川大学 整形外科	キアリ骨盤骨切り術の術後成績に影響を及ぼす因子の検討	Hip Joint、42巻1号: 284-288 2016.8	Original Article
47	根ヶ山 敬大	香川大学 整形外科	Summitシステムを使用したTHAの短期成績	中国・四国整形外科学会雑誌、28巻2号: 287-291 2017	Original Article
48	田宮 隆	香川大学 医学部脳神経外科	脳腫瘍診療におけるPET検査の有用性(総説)	Neuro-Oncologyの進歩 (1880-0742)23巻2号 Page8-12(2016.09)	Review

49	三宅 啓介	香川大学 医学部脳神経外科	【悪性グリオーマに対する治療】画像でみる悪性神経膠腫に対するペバシズマブの効果(解説/特集)	脳神経外科ジャーナル (0917-950X)25巻11号 Page912-921(2016.11)	Review
50	三宅 啓介	香川大学 医学部脳神経外科	【脳腫瘍学-基礎研究と臨床研究の進歩-】総論 脳腫瘍画像診断の変遷と展望(解説/特集)	日本臨床 (0047-1852)74巻増刊7 脳腫瘍学 Page17-24(2016.09)	Review
51	四宮 あや	香川大学医学部脳神経外科 香川大学医学部附属病院 地域医療教育支援センター	インクジェット紫外線硬化方式3Dプリンタの医学・医療分野への実用化(総説)	医療機器学 (1882-4978)86巻3号 Page288-297(2016.06)	Review
52	三宅 啓介	香川大学 医学部脳神経外科	【今、いちばん新しい手術室-画像情報編】手術室での効果検証 省スペース型術中MRIシステムが脳神経外科手術にもたらす効果(解説/特集)	新医療 (0910-7991)43巻7号 Page97-100(2016.07)	Review
53	岡田 真樹	香川大学 医学部脳神経外科	【脳ドック-先制医療の切り札へ】無症候性脳腫瘍 神経鞘腫(解説/特集)	Clinical Neuroscience (0289-0585)34巻4号 Page466-469(2016.04)	Review
54	小野 優子	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, Case of April	画像診断 (Vol36・No.5・435・2016.4)	Case report
55	木村 成秀	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, The Key to Case of February	画像診断 (Vol36・No.5・436-438・2016.4)	Case report
56	室田 真希子	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, Case of May	画像診断 (Vol36・No.6・565・2016.5)	Case report
57	福田 有子	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, The Key to Case of March	画像診断 (Vol36・No.6・566-568・2016.5)	Case report
58	奥田 花江	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, Case of June	画像診断 (Vol36・No.7・685・2016.6)	Case report
59	小野 優子	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, The Key to Case of April	画像診断 (Vol36・No.7・686-688・2016.6)	Case report
60	室田 真希子	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, The Key to Case of May	画像診断 (Vol36・No.8・810-812・2016.7)	Case report

61	奥田 花江	香川大学医学部放射線医学講座	CASE OF THE MONTH, The Key to Case of June	画像診断 (Vol.36・No.9・942-944・2016.8)	Case report
62	福田 有子	香川大学医学部放射線医学講座	FDG-PET/CTを施行した傍骨性骨肉腫の1例	核医学症例検討会症例集 (Vol37・No.1・9-10・2016.8)	Case report
63	則兼 敬志	香川大学医学部放射線医学講座	日常診療における心臓CTのピットフォール	臨床放射線 (Vol62・No.1・101-111・2017.2)	Others
64	高見 康景	香川大学医学部放射線医学講座	輸血関連急性肺障害 (TRALI) の1例	臨床放射線 (Vol62・No.1・209-213・2017.2)	Case report
65	中井 史	香川大学 医学部歯科口腔外科学講座	舌横紋筋肉腫と甲状腺癌を併発したvon Recklinghausen病の1例	日本口腔外科学会雑誌 (0021-5163)63巻1号 Page35-39(2017.01)	Case report
66	白杵尚志	手術部	消化器疾患	手術治療学 194～220頁 2016.12	Original Article
67	白杵尚志	手術部	国際的視点からの現状と展望	Biomedical THEMOLOGY Vol.35, No2 8-9P 2016.1	Review
68	白杵尚志	手術部	将来を見据えた手術部高機能化の実例～その有用性と設計・建設時の注意～	月刊新医療 43(4), 76-79, 2016-04	Review
69	白杵尚志	手術部	山岳診療所の参加者から見た認定山岳医	登山医学 Vol.36 No.1 2016年12月 P18-23	Review
70	白杵尚志	手術部	International Consensus and Guideline of Medical Thermography 2016 参加報告	Biomedical THEMOLOGY Vol.36, No2 2017.1 巻頭言	Review
71	白杵尚志	手術部	山岳診療所の現況と課題	臨床スポーツ医学 Vol.34 No.3 P28-292 2017.3	Review
72	鈴木裕美	香川大学 医学部附属病院 臨床研究支援センター, 香川大学 大学院医学研究科公衆衛生学分野	香川県における子育て支援プログラム導入の試み～「前向き子育てプログラム(トリプルP)」の有用性の検討～	地域環境保健福祉研究. 19(1). 2016. 25-32.	Others

計72件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 手順書の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none">1 医学部倫理委員会の趣旨及び設置<ol style="list-style-type: none">(1) 趣旨(2) 設置2 委員会の組織等<ol style="list-style-type: none">(1) 組織(2) 委員長(3) 専門委員等3 委員会の任務4 審査の観点5 審査の開始<ol style="list-style-type: none">(1) 審査の開始(2) 審議方法の判定等6 通常審議<ol style="list-style-type: none">(1) 委員会の開催(2) 委員会の成立要件等(3) 審査の判定及び通知7 迅速審査<ol style="list-style-type: none">(1) 迅速審査の実施(2) 審査の判定及び通知8 簡易審査<ol style="list-style-type: none">(1) 簡易審査の実施(2) 審査の判定及び通知9 緊急審査<ol style="list-style-type: none">(1) 緊急審査の実施(2) 審査の判定及び通知10 議事要旨等の保存及び公表<ol style="list-style-type: none">(1) 議事要旨等の保存(2) 議事要旨等の公表11 委員の守秘義務12 委員会委員名簿13 その他	

③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回
----------------	------

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>香川大学医学部に、臨床研究利益相反委員会を置き、委員会は、臨床研究に係る利益相反審査自己申告書により、利益相反のマネジメントを行う。自己申告書により利益相反が明らかな場合、委員会は、自己申告書に添付された研究計画書等に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。なお、審議に際し、関係する各倫理審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集、調査及びフォローアップも行うこととしている。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	<p>年4回</p> <p>※定期開催ではなく、利益相反審査自己申告書により利益相反が明らかな場合にのみ随時開催することとしている。</p>

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>研究者等の臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識の向上を目的として、平成28年6月、平成28年10月、平成29年1月、平成29年3月に医学部倫理委員会教育訓練講習会を実施した。また、平成28年11月には、研究者等のヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理その他ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に必要な知識の向上を目的とするヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会教育訓練講習会を実施した。</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

下記の研修統括者を代表とする指導医の適切な指導の下、各専門領域の高度医療に関する研修指針に基づく体系的な指導を行うとともに、多職種からなる定期的なカンファレンス、医療安全・感染制御及び医療倫理等の講習会等の参加機会を確保し、チーム医療や安全管理等の実践教育を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	40.6人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
村尾 孝児	内分泌代謝内科	教授	27年	
門脇 則光	血液内科	教授	31年	
土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	講師	25年	
石井 知也	呼吸器内科	講師	20年	
南野 哲男	循環器内科 抗加齢血管内科	教授	29年	
祖父江 理	腎臓内科	講師	13年	
正木 勉	消化器内科	教授	27年	
出口 一志	神経内科	准教授	31年	
舛形 尚	総合内科	教授	31年	
辻 晃仁	腫瘍内科	教授	26年	
窪田 泰夫	皮膚科	教授	38年	
中村 祐	精神科神経科	教授	31年	
日下 隆	小児科	教授	26年	
秦 利之	周産期科女性診療科	教授	37年	
堀井 泰浩	心臓血管外科	教授	29年	
鈴木 康之	消化器外科	教授	34年	
横見瀬 裕保	呼吸器外科	教授	36年	
紺谷 桂一	乳腺内分泌外科	准教授	34年	
下野 隆一	小児成育外科	准教授	29年	
山本 哲司	整形外科	教授	34年	
永竿 智久	形成外科・美容外科	教授	27年	
杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	准教授	29年	
田宮 隆	脳神経外科	教授	36年	
廣岡 一行	眼科	教授	23年	
星川 広史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	27年	
柴田 徹	放射線治療科	教授	29年	
西山 佳宏	放射線診断科	教授	27年	
白神 豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	教授	33年	
羽場 礼次	病理診断科	准教授	27年	

加地 良雄	リハビリテーション科	講師	23年
黒田 泰弘	救命救急センター	教授	33年
三宅 実	歯・顎・口腔外科	教授	30年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
エキスパート研修 看護職員を対象とし、緩和ケア、がん性疼痛看護、糖尿病看護、新生児集中ケア、感染管理、手術看護、集中ケア、摂食・嚥下障害看護、認知症看護、乳がん看護、脳卒中リハビリテーション看護、皮膚排尿ケア(WOC)、慢性心不全看護の専門分野におけるエキスパートの育成を目的とする。
- ・研修の期間・実施回数
年 37 回程度
- ・研修の参加人数（延べ数）
平成 28 年度 920 名（院外従事者含む）

- ・研修の主な内容
病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に医薬品の適正使用について指導を行う
- ・研修の期間・実施回数
適宜 年数回
- ・研修の参加人数
各病棟 5～10 名程度

- ・研修の主な内容
臨床検査技師を対象とする勉強会
- ・研修の期間・実施回数
週 1 回
- ・研修の参加人数
20～25 名

- ・研修の主な内容
診療放射線技師を対象とする放射線部勉強会
- ・研修の期間・実施回数
週 1 回
- ・研修の参加人数
約 30 名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に麻薬・向精神薬の管理について指導を行う
- ・研修の期間・実施回数
適宜 年数回

- ・研修の参加人数
各病棟 5～10 名程度
- ・研修の主な内容
放射線部に所属する全職種責任者による放射線部安全運営会議
- ・研修の期間・実施回数
月 1 回
- ・研修の参加人数
約10名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
MRI の検査技術について
- ・研修の期間・実施回数
1 ヶ月・1 回
- ・研修の参加人数
約1名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 横見瀬 裕保
管理担当者氏名	総務課長 小野 浩三 医事課長 吉野 紀章 薬剤部長 芳地 一 放射線部長 西山 佳宏

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規 則 第 二 十 二 条 の 三 第 二 項 に 掲 げ る 事 項	病院日誌	医学部医事課
		各科診療日誌	医学部医事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医療情報部
		看護記録	医療情報部
		検査所見記録	検査部、病理部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医学部医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
			診療録及び診療諸記録を電子媒体にて保存管理している。紙媒体のものについては、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は1患者1ファイル方式で共に20年を原則として、コンピューターによる集中管理を行っている。 診療録の院外への持出は、禁止している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	三 項 に 掲 げ る 事 項	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課
		高度の医療の提供の実績	医学部医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課
		高度の医療の研修の実績	医学部医事課
		閲覧実績	医学部医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医事課 薬剤部
	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医事課 医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医学部総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医事課 地域連携室 医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医学部総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 白川 博章	
閲覧担当者氏名	医事課長 吉野 紀章	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 1階情報公開室	
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により申し込み、閲覧承諾書により申請者に通知される。 閲覧には担当者が立ち会い、諸記録の貸し出し及びコピーは行えない。		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容：別紙①のとおり	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 ((有)・無) ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： 1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。 3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。 4. 医療事故の防止及び対策に関すること。 5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。 6. 医療事故発生時の対応方法の整備 (事故調査を含む。)に関すること。 7. 医事問題に係る対策に関すること。 8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。 9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 38回
・ 研修の主な内容：別紙②のとおり	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. インシデントレポートの収集・分析：毎日レポートを確認後、現場へ事実確認を行う。重要事例については現場にイベントレビューを記載依頼し、その後現場と共に分析を行う。レベル 3 b 以上のインシデントを含む重要事例は、医療安全管理部長・病院長へ報告する。 2. 効果的な安全対策の立案：現場と共に行った分析の結果、立案した安全対策を医療安全管理部員会議で審議する。 3. 安全対策を現場にフィードバックし、その後、現場巡視し実施状況を確認し評価する。(PDCA サイクルを回す)	

4. 全死亡退院事例を検証し、詳細な検討が必要であると認めた事例には当該科へ報告書の提出を依頼し、医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会で審議する。
5. 安全管理の委員会の運営：医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会・リスクマネジャー会議の運営（資料作り・関係部署との調整など）
6. 職員研修の企画・運営：安全研修の企画運営と採用者・異動者に対する初期安全研修の実施、発生したインシデントに対する教育指導として研修を企画・運営。
7. Safety ニュース発行（毎月）：その月のトピックスを掲載し職員に注意喚起している。
8. 安全対策マニュアル（指針を含む）の見直し（年1回）：最新の医療水準に基づいて内容の見直しを毎年実施している。（RM 全員と共に行っている。）
9. 医療安全に関する患者からの相談対応。

(注) 前年度の実績を記入すること。

1. 安全管理のための基本方針

本院は、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、各医療現場において安全確実な医療を実践・教育する。医療事故の絶無を期して、現場における責任体制を明確にし、医療事故防止のための安全管理体制を病院全体で取り組み確立する。

1)安全管理のための委員会

安全管理及び医療事故の防止・対策について審議するため、医療安全管理委員会を置く。

2)医療安全管理責任者

医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括するため、医療安全管理責任者を置く。

3)医療安全管理部

医療安全管理委員会が講じた安全対策をリスクマネジャーを通じて速やかに実践徹底させると共に、医療安全管理委員会に安全対策を提言する。

4)専任リスクマネジャー

本院全体の医療事故防止及び安全管理の任に当たらせるため、医療安全管理部に専任リスクマネジャーを置く。

5)リスクマネジャー

医療安全管理委員会及び医療安全管理部が講じた安全対策等の情報を、各医療現場に浸透させるため、また、各医療現場で発生した医療事故及びインシデントの報告及び医療事故防止に関する問題点等を医療安全管理部及び医療安全管理委員会の審議に反映させるため、各科(部)等にリスクマネジャーを置く。

6)安全管理のための職員教育及び研修

医療事故防止手法などの安全管理に関する教育を行うと共に、職員研修を開催する。

7)医療事故発生時の対応

医療事故に関する情報は、速やかに、病院長及び医療安全管理部長に連絡し、報告書を提出する。

医療安全管理委員会は報告書に基づいて、内容・実状を把握し、対応・改善を協議する。

8)安全対策マニュアル

病院関係職員の医療事故防止のため、「安全対策マニュアル」を作成し、周知徹底を図る。なお、状況等により随時見直しを行うものとする。

9)インフォームド・コンセントに係る責任者

インフォームド・コンセントを適切に実施するための手順の作成、手順の遵守状況の確認、指導・研修、その他適切な実施に関することを行うため、インフォームド・コンセントに係る責任者を置く。

10)診療録管理責任者

診療録その他の診療に関する記録の適切な管理を行うために診療録管理責任者を置く。

11)医薬品安全管理責任者

本院全体の医薬品の安全使用の任に当たらせるため、薬剤部に医薬品安全管理責任者を置く。

12)医療機器安全管理責任者

本院全体の医療機器の安全使用の任に当たらせるため、ME機器管理センターに医療機器安全管理責任者を置く。

13) 診療情報の共有

医療従事者からの十分な説明に基づいて、患者自身が疾病や診療内容について理解・納得・同意が得られるように情報を共有する。患者さんと医療従事者との間で患者さんの診療情報を共有し、医療上の意思決定や治療効果の向上が図ることができるようにする。また医療従事者間でも患者の診療情報を共有し、安全で質の高い医療の実現を目指すものとする。

14) 患者相談

患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して、誠実に対応する。

15) その他

安全管理のための方策を検討し、医療事故防止に努める。

本指針は、患者さん及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

平成28年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1	3月28日	新採用研修医	35名	140分	講義「当院の患者安全管理体制について、インシデントレポートの書き方と事例分析、およびPDA操作について」 講師 医療安全管理部 田宮医療安全管理部長・舛形GRM・松本GRM
2	3月30日	新採用研修医	35名	120分	講義「CV(中心静脈カテーテル)挿入施行医認定制度導入について」 「超音波ガイド下中心静脈穿刺 コツと落とし穴」 「安全で確実なCVC挿入のために」 実習「シミュレーターを用いた穿刺実習」 講師 医療安全管理部 舛形GRM 手術部 古泉真理 助教 地域医療教育支援センター 四宮あや 助教 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳
3	3月30日	医師	1名	120分	講義「CV(中心静脈カテーテル)挿入施行医認定制度導入について」 「超音波ガイド下中心静脈穿刺 コツと落とし穴」 「安全で確実なCVC挿入のために」 実習「シミュレーターを用いた穿刺実習」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 舛形専任RM 地域医療教育支援センター 四宮あや
4	4月4日	新採用者(看護師)	73名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
5	4月4日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
6	4月12日	リスクマネジャー(看護師長)	4名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
7	4月15日	新採用者(医師)	13名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
8	4月18日	新採用者(看護師)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
9	4月19日	リスクマネジャー	7名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
10	4月22日	新採用者 異動者 復帰者 (栄養士・視能訓練士・事務補佐員・臨床検査技師・放射線技師・作業療法士・言語療法士・臨床工学技士・薬剤師・看護師・事務職員・外注職員ニチイ、アビリティ、マンパワー、文教、看護補助者)	35名 1名 1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
11	5月2日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 10名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
12	5月11日	新採用者(医師) 復帰者(医師)	24名 1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
13	5月16日	リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
14	5月24日	全職員	692名 (698名)	60分	講義「平成27年度 インシデント集計報告」 「平成27年度 RRS、死亡退院事例検証集計報告」 講師 田宮医療安全管理部長・舛形専任RM・松本専任RM
	5月27,30,31日,6月1,2日	全職員 (ビデオ上映会)	382名 (393名)	60分	

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
15	新採用者 初期安全研修	6月1日 新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	10名 2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
16	新採用者 初期安全研修	6月15日 新採用者 (栄養士、看護師、薬剤師、事務補佐員)	9名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
17	安全管理研修(講義)	6月28日 全職員(事務系職員除く)	689名 (708名)	60分	講義 ①「採血・点滴時の神経損傷対策」 ②「外科における静脈血栓塞栓症」 講師 ①リハビリテーション部 加地良雄 ②大阪大学消化器外科 畑泰司
		7月1,4,5, 6,7日 全職員(事務系職員除く) (ビデオ上映会)	331名 (339名)	60分	
18	新採用者 初期安全研修	7月1日 新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
19	安全管理研修(講義)	7月22日 全職員(事務系職員除く)	507名 (512名)	60分	講義 <医薬品> 「薬剤アレルギーの急性期対応方法について」 <医療機器> 「輸液ポンプの使用方法和取扱い上の注意」 講師 <医薬品> 救命救急センター 阿部祐子 <医療機器> (株)ムトウテクノス 田久保力
		7月26,29日 全職員(事務系職員除く) (ビデオ上映会)	448名 (449名)	60分	
20	新採用者 初期安全研修	8月1日 新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 3名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
21	新採用者 初期安全研修	8月3日 新採用者 (臨床心理士、事務補佐員、技術補佐員、外注職員ニイ)	5名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
22	新採用者 初期安全研修	8月16日 新採用者 (看護師)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
23	新採用者 初期安全研修	9月1日 新採用者(看護師) 復帰者(看護師) 新採用者(看護補助者)	1名 1名 2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
24	安全管理研修(講義)	9月6日 全職員	716名 (724名)	60分	講義「インフォームド・コンセント -説明要件を中心に-」 講師 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 前田正一
		9月9,12, 14,15日 全職員 (ビデオ上映会)	461名 (467名)	60分	
25	新採用者 初期安全研修	10月3日 復帰者(看護師) 新採用者(看護補助者)	4名 1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
26	新採用者 初期安全研修	10月27日 新採用者 (事務補佐員、外注職員ニイ)	2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
27	新採用者 初期安全研修	11月1日 新採用者(看護師) 新採用者(看護補助者)	1名 1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
28	安全管理研修(講義)	11月1日 全職員	696名 (706名)	30分	講義「2016年特定機能病院の承認要件見直しに対応する本院の新しいインフォームド・コンセントマニュアルについて」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
		11月7,9,10, 11日 全職員 (ビデオ上映会)	363名 (372名)	30分	
29	安全管理(医療ガス)研修(講義)	11月17,29日 医師、看護師、放射線技師	473名	60分	講義「各地で起こるボンベ破裂事故及び医療ガス安全・管理委員会について等」 講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松帝酸(株)多度津事業所 主事 山下基光

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
30 安全管理研修(講義)	11月24日	全職員(事務系職員・ 調理師除く)	566名 (571名)	60分	講義 <医療機器> 「生体モニターに関する注意点・事例等」 <放射線> 「MRIの安全管理と造影剤の話」 講師 <医療機器> 日本光電四国株式会社 清水恭 <放射線> 放射線部 副部長 木村成秀
	12月6.8日	全職員(事務系職員・ 調理師除く) (ビデオ上映会)	299名 (301名)	60分	
31 新採用者 初期安全研修	12月1日	復帰者(看護師)	2名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
32 安全管理研修(講義)	12月20日	全職員	576名 (579名)	60分	講義 <感染対策> 「手指衛生について」 <医薬品> 「血液製剤の取り扱いについて」 講師 <感染対策> 感染制御部副部長・集中治療部副部長 浅賀健彦 <医薬品> 輸血部副部長 横倉繁行
	12月26,27日 1月5,6,11日	全職員 (ビデオ上映会)	463名 (469名)	60分	
33 新採用者 初期安全研修	1月4日	復帰者(看護師)	2名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
		新採用者(看護補助者)	1名		

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容：別紙③のとおり 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 院内感染の調査、予防及び防止に関すること。 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 感染症発生時の措置に関すること。 院内職員の教育及び啓蒙に関すること。 消毒剤の使用に関すること。 HIV感染及びAIDSに係る職員の教育・啓蒙に関すること。 HIV・AIDS診療に従事する人材の育成に関すること。 HIV・AIDS診療に係る県内各拠点病院との連携の実施に関すること。 その他感染予防に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回+採用時+適宜
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 手指衛生からはじまる感染予防策 手指衛生について 感染対策のための職員採用等研修病院感染対策、標準予防策、廃棄物処理、職業感染防止 明日から役立つ感染対策①標準予防策—標準だけど難しい標準予防策をマスターしよう— 明日から役立つ感染対策②手指衛生—適切なタイミングと方法で医療感染を防止しよう— 明日から役立つ感染対策③院内感染上問題となる微生物 明日から役立つ感染対策④処置別感染予防策 静脈注射認定研修 適切な感染管理に基づいた感染防止 感染症診療の基本 骨軟部組織感染症 血液培養と感染症治療 院内における発熱への対応カテーテル関連感染を含む 性行為感染症 放射線領域における感染対策、手洗い実習等 リハビリテーション部における感染対策、手洗い実習等 清掃業務に必要な感染対策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 感染対策室員会議、感染制御委員会で、MRSA等の耐性菌検出状況と共に、感染予防策の実施状況及び、感染拡大防止を図るための課題の検討・報告を行っている。室員会議・委員会における報告・決定事項は、職種横断的な構成員により各部署へ周知される。 耐性菌検出時や問題となる感染症発生時には、ICNが現場に出向き、適切な対策が実施できているかを確認し、指導を行っている。また、ICTによる感染症ラウンド時においても、現場の感染対策の実施状況の評価を行っている。 アウトブレイク発生時や重大な感染事例発生時には、ICTで対策を検討し、ICT、リンクドクター、リンクナースが協働し対応にあたる。病院長、感染制御委員会、各関係会議等へ報告は適宜行う。 院内感染予防マニュアルは、適宜改訂を行っており、電子カルテから閲覧できるよう整備している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

感染対策のための指針

香川大学医学部附属病院は、病院の理念に基づき、感染防止および感染制御の対策に取り組むことで、患者および病院職員に安全で快適な医療環境を提供する。
そのための基本的な考え方を以下に定める。

1. 感染対策に関する基本的な考え方

病院感染の発生を未然に防ぎ、感染症発生時に拡大を防止するためには、その原因を速やかに特定し、早期に制圧することが重要である。そのため、感染防止対策を職員全員が把握し、病院の理念に則った医療が提供できるよう取り組む。

2. 感染対策の推進のために必要な基本方針

職員は、院内感染予防マニュアルに沿って、手洗いの徹底、マスク、手袋等の着用など、常に感染予防策の遵守に努める。

職員は、自らが感染源とならないよう、定期健康診断を受診し、健康管理に努める。
院内感染予防マニュアルは、定期的に見直しを行い、病院職員へ周知徹底を図る。

3. 感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項

香川大学医学部附属病院感染制御委員会規定に基づき、感染制御委員会を設置し、病院感染の調査、感染予防の実施、発生時の措置等に関する審議・決定を行う。

病院感染等の発生防止に関する業務を迅速かつ機能的に実行するために、感染対策室を設置する。

4. 感染対策のための職員研修に関する基本方針

感染防止対策の基本的な考え方および防止対策に対する意識の向上を図るために、全病院職員対象の研修会を年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。研修の開催結果を記録し、保存する。

5. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

耐性菌および市中感染症等の院内発生に伴う感染拡大を防止するため、感染症発生状況を感染制御委員会および感染対策室を通じて、病院職員に定期的に通知する。また、感染制御システムにより、随時情報提供を行う。

6. 病院感染発生時の対応に関する基本方針

病院感染が発生した部署の病院職員は、直ちに感染対策室へ報告する。感染対策室は、状況および対応を病院長ならびに感染制御委員会に報告する。感染対策室および発生部署の病院職員は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し実施する。

感染対策室は、発生状況および改善策の実施結果について感染制御委員会、電子メールおよび紙媒体を通じて全職員に速やかに周知する。

7. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、院内感染予防マニュアルおよびホームページに掲載する。

付 則

この指針は、平成 19 年 7 月 1 日より施行する。

平成 21 年 3 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 23 年 7 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 25 年 12 月 1 日より一部改定、施行する。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	① 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回+採用時+適宜
・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用を目的とし、各病棟職員または病院職員全体を対象とした研修を行っている。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (① 有・無) ・ 業務の主な内容： 1. 医薬品の採用と購入 2. 医薬品の管理 3. 投薬指示と調剤 4. 患者に対する服薬指導 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い(収集・提供) 6. 他施設との連携の各業務について適正に実施している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (① 有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 薬剤部ニュース(月1回)を全診療科・部に配布している。 2. 急を要する連絡は文書と院内Webで通知している。 3. 薬事委員会で院内採用薬の見直しを行っている。 4. 院内での副作用発生事例については情報を収集し、厚生労働省および当該医薬品メーカーへ報告を行っている。 5. 医薬品安全管理委員会(薬事委員会)を設置、年4回開催している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 約100回
・ 研修の主な内容： 特定保守管理医療器（人工心肺装置及び補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器）を中心に関連する部署、職員等を対象に新規導入の医療機器や使用機器の研修計画を年度毎に立て計画的に実施している。内容は使用上における使用方法や注意事項・運用方法など現場と相談し行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 機種別に保守点検の周期を設け、定期的に点検を実施し、記録を保存している。 業務委託による保守点検においては実施状況等の記録を保存し、管理状況を把握している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内ニュースとして「ME機器管理センターからのお知らせ」を定期的に発行し、各病棟、各部署に配布周知している。 医療機器に関わるインシデントや運用について必要に応じてリスクマネージャー会議で協議し周知徹底を行っている。 また、対象部署が限局される事項の内容やPMDA（医療機器）回収情報など、その都度通知文を回覧し周知徹底している。 院内ネットワークK-MINDにてマニュアル、添付文書、ニュース、お知らせを掲載している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	① 有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる医療安全管理責任者を配置し、統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② 有 (6名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 1 回/月、薬剤部ニュース、1 回/3 ヶ月、DI ニュースを発行し、各診療科・各部署に配布して周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬剤は倫理委員会、IRB での審査を必須としている。禁忌薬剤は系統的にチェックをかけて注意・警告している。禁忌病名は 1 回/月 薬品名と病名を抽出し、表にして各診療科・各部署に配布し周知状況を確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無 ③ 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④ 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ※マニュアルで代用)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ： 2016 年 9 月に作成したインフォームド・コンセントに関する規定 (マニュアル) において、説明内容・説明方法を新しく設定し、2016 年 11 月の全職員対象の研修会において周知した。同時に、規定に定めた雛形に沿った説明・同意文書の作成を行うように指導した。その結果、2017 年</p>	

6月までに、雛形に沿った331個の説明・同意文書が提出され、規定に定めた事項が遵守されていることを確認した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

①・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療録等の記載内容については定期的に監査を行い、不十分な事例が認められる場合は当該診療科に通知し、適切な診療録管理が行われるよう指導している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

①・無

・所属職員：専従（3）名、専任（3）名、兼任（22）名

うち医師：専従（0）名、専任（2）名、兼任（9）名

うち薬剤師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（3）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- ①病院長の下に組織横断的に院内の安全管理を担い、医療安全管理委員会の審議事項に関して、調査、資料作成等を行うとともに、医療安全管理委員会の審議結果等に基づく安全管理を実施する。
- ②安全管理委員会に対して安全管理に関する提言を行う。
- ③医療安全の確保に資する診療の状況を把握する。
- ④職員の医療安全に関する意識向上の状況確認を行う。

モニタリング具体例

- ・インシデント分析
- ・死亡退院事例検証（粗死亡率、真死亡率、術後10日以内死亡率）
- ・院内急変事例分析（コードブルー、ショックコール、RRS件数）
- ・転倒転落発生率
- ・転棟転落（有害事象発生率、3b、骨折）
- ・CV穿刺に関する有害事象発生率
- ・再手術（24時間以内）
- ・患者誤認発生率、発生数

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ◎高難度新規医療技術の提供の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否、実施を認める場合の条件等について意見を求める。
 - ◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。
 - ◎高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
 - ◎高難度新規医療技術が適切な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。
 - ◎高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び申請を行った診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ◎未承認新規医薬品等の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否及び使用条件等について意見を求める。
 - ◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否及び使用条件等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。
 - ◎未承認新規医薬品等が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
 - ◎未承認新規医薬品が適切な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。
 - ◎未承認新規医薬品の使用の適否及び使用条件等について決定した時及び申請を行った診療科等

の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 ・ 無

・ 監査委員会の開催状況：年 2回

・ 活動の主な内容：

1. 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じ実地で確認を行う。
2. 学長又は病院長に対し、必要に応じて、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう求める。
3. 上記の業務についての結果を公表する。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 委員名簿の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院のホームページへの掲載による公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県立中央病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
森脇 正	森脇法律事務所長 ・ 弁護士		法律に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
瓜生 幸子	がん患者会ネットワーク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
中舎 喜博	香川大学副学長		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：全例報告
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 115 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。
 2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。
 3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。
 4. 医療事故の防止及び対策に関すること。
 5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。
 6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。
 7. 医事問題に係る対策に関すること。
 8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。
 9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
安全管理のための基本方針として、「患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して誠実に対応する。」と掲げ、医療相談窓口を設け、患者からの相談に対応している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
別紙④のとおり

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

無

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

平成28年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1	3月28日	新採用研修医	35名	140分	講義「当院の患者安全管理体制について、インシデントレポートの書き方と事例分析、およびPDA操作について」 講師 医療安全管理部 田宮医療安全管理部長・舛形GRM・松本GRM
2	3月30日	新採用研修医	35名	120分	講義「CV(中心静脈カテーテル)挿入施行医認定制度導入について」 「超音波ガイド下中心静脈穿刺 コツと落とし穴」 「安全で確実なCVC挿入のために」 実習「シミュレーターを用いた穿刺実習」 講師 医療安全管理部 舛形GRM 手術部 古泉真理 助教 地域医療教育支援センター 四宮あや 助教 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳
3	3月30日	医師	1名	120分	講義「CV(中心静脈カテーテル)挿入施行医認定制度導入について」 「超音波ガイド下中心静脈穿刺 コツと落とし穴」 「安全で確実なCVC挿入のために」 実習「シミュレーターを用いた穿刺実習」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 舛形専任RM 地域医療教育支援センター 四宮あや
4	4月4日	新採用者 (看護師)	73名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
5	4月4日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
6	4月12日	リスクマネジャー (看護師長)	4名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
7	4月15日	新採用者 (医師)	13名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
8	4月18日	新採用者 (看護師)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
9	4月19日	リスクマネジャー	7名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
10	4月22日	新採用者 異動者 復帰者 (栄養士・視能訓練士・ 事務補佐員・臨床検査 技師・放射線技師・作 業療法士・言語療法 士・臨床工学技士・薬 劑師・看護師・事務職 員・外注職員・CT・アピ リテ、マンパワー、文教、看 護補助者)	35名 1名 1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
11	5月2日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 10名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
12	5月11日	新採用者(医師) 復帰者(医師)	24名 1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
13	5月16日	リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
14	5月24日	全職員	692名 (698名)	60分	講義「平成27年度 インシデント集計報告」 「平成27年度 RRS、死亡退院事例検証集計報告」 講師 田宮医療安全管理部長・舛形専任RM・松本専任RM
	5月27,30,31 日,6月1,2日	全職員 (ビデオ上映会)	382名 (393名)	60分	

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
15	6月1日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	10名 2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
16	6月15日	新採用者 (栄養士、看護師、薬剤師、事務補佐員)	9名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
17	6月28日	全職員(事務系職員除く)	689名 (708名)	60分	講義 ①「採血・点滴時の神経損傷対策」 ②「外科における静脈血栓塞栓症」 講師 ①リハビリテーション部 加地良雄 ②大阪大学消化器外科 畑泰司
	7月1,4,5,6,7日	全職員(事務系職員除く) (ビデオ上映会)	331名 (339名)	60分	
18	7月1日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
19	7月22日	全職員(事務系職員除く)	507名 (512名)	60分	講義 <医薬品> 「薬剤アレルギーの急性期対応方法について」 <医療機器> 「輸液ポンプの使用方法和取扱以上の注意」 講師 <医薬品> 救命救急センター 阿部祐子 <医療機器> (株)ムトウテクノス 田久保力
	7月26,29日	全職員(事務系職員除く) (ビデオ上映会)	448名 (449名)	60分	
20	8月1日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師)	1名 3名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
21	8月3日	新採用者 (臨床心理士、事務補佐員、技術補佐員、外注職員ニチイ)	5名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
22	8月16日	新採用者 (看護師)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
23	9月1日	新採用者(看護師) 復帰者(看護師) 新採用者(看護補助者)	1名 1名 2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
24	9月6日	全職員	716名 (724名)	60分	講義「インフォームド・コンセント -説明要件を中心に-」 講師 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 前田正一
	9月9,12,14,15日	全職員 (ビデオ上映会)	461名 (467名)	60分	
25	10月3日	復帰者(看護師) 新採用者(看護補助者)	4名 1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
26	10月27日	新採用者 (事務補佐員、外注職員ニチイ)	2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
27	11月1日	新採用者(看護師) 新採用者(看護補助者)	1名 1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
講師 医療安全管理部 松本専任RM					
28	11月1日	全職員	696名 (706名)	30分	講義「2016年特定機能病院の承認要件見直しに対応する本院の新しいインフォームド・コンセントマニュアルについて」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
	11月7,9,10,11日	全職員 (ビデオ上映会)	363名 (372名)	30分	
29	11月17,29日	医師、看護師、放射線技師	473名	60分	講義「各地で起こるボンベ破裂事故及び医療ガス安全・管理委員会について等」
講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松希酸(株)多度津事業所 主事 山下基光					

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
30 安全管理研修(講義)	11月24日	全職員(事務系職員・ 調理師除く)	566名 (571名)	60分	講義 <医療機器> 「生体モニターに関する注意点・事例等」 <放射線> 「MRIの安全管理と造影剤の話」 講師 <医療機器> 日本光電四国株式会社 清水恭 <放射線> 放射線部 副部長 木村成秀
	12月6,8日	全職員(事務系職員・ 調理師除く) (ビデオ上映会)	299名 (301名)	60分	
31 新採用者 初期安全研修	12月1日	復帰者(看護師)	2名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
32 安全管理研修(講義)	12月20日	全職員	576名 (579名)	60分	講義 <感染対策> 「手指衛生について」 <医薬品> 「血液製剤の取り扱いについて」 講師 <感染対策> 感染制御部副部長・集中治療部副部長 浅賀健彦 <医薬品> 輸血部副部長 横倉繁行
	12月26,27日 1月5,6,11日	全職員 (ビデオ上映会)	463名 (469名)	60分	
33 新採用者 初期安全研修	1月4日	復帰者(看護師)	2名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
		新採用者(看護補助者)	1名		

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構 評価日：2014年 2月19日～2014年 2月20日 認定期間：2014年 5月 2日～2019年 5月 1日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページや、本院の高度な医療を紹介した書籍の出版により、本院の診療機能を広く発信している。 医療セミナー「イキイキさぬき健康塾」を定期的で開催し、その内容をケーブルテレビで放映するなど、本院が提供している最新医療の情報を地域に発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 救命救急センターと各診療科が連携し、多発外傷、脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、重症熱傷等、緊急性の高い重症救急疾患に対する高度な専門的医療を総合的に実施している。 手術、放射線、化学療法及び緩和医療の各専門医等からなるがんボードを設け、がん患者の症状、状態に応じた最適な治療方針を作成している。	